

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月28日
【事業年度】	第72期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	伊藤ハム株式会社
【英訳名】	ITOHAM FOODS INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 堀尾 守
【本店の所在の場所】	神戸市灘区備後町3丁目2番1号 （上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記において行っております。） （本社事務所）兵庫県西宮市高畑町4番27号
【電話番号】	西宮 0798(66)1231番
【事務連絡者氏名】	管理本部経理部 部長 高橋 伸
【最寄りの連絡場所】	東京都目黒区三田1丁目6番21号
【電話番号】	東京 03(5723)8111番
【事務連絡者氏名】	管理本部経理部経理企画課 課長 井上 公英
【縦覧に供する場所】	伊藤ハム株式会社東京支店 （東京都目黒区三田1丁目6番21号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪府中央区北浜1丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第68期 平成20年3月	第69期 平成21年3月	第70期 平成22年3月	第71期 平成23年3月	第72期 平成24年3月
売上高 (百万円)	517,950	487,128	452,453	455,989	447,399
経常利益又は経常損失 () (百万円)	6,867	876	3,290	3,825	4,401
当期純利益又は当期純損 失() (百万円)	4,395	6,294	1,292	478	2,060
包括利益 (百万円)	-	-	-	1,054	2,453
純資産額 (百万円)	118,555	117,436	119,855	116,729	115,735
総資産額 (百万円)	233,666	209,885	217,457	204,557	197,937
1株当たり純資産額 (円)	566.59	476.25	485.85	481.41	494.82
1株当たり当期純利益金 額又は1株当たり当期純 損失金額() (円)	21.10	30.01	5.27	1.96	8.57
潜在株式調整後1株当 り当期純利益金額 (円)	-	-	5.27	1.96	8.57
自己資本比率 (%)	50.51	55.66	54.81	56.71	58.18
自己資本利益率 (%)	3.73	5.36	1.10	0.41	1.78
株価収益率 (倍)	27.82	-	67.36	151.82	36.51
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	13,221	7,728	21,000	7,635	2,430
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,264	3,477	3,864	118	8,494
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,357	5,615	3,061	12,706	2,582
現金及び現金同等物の期 末残高 (百万円)	31,961	25,704	39,990	34,706	26,285
従業員数 (人)	5,276	5,945	5,963	5,871	5,308
[外、平均臨時雇用者数]	[8,550]	[7,437]	[7,323]	[7,133]	[6,093]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第69期の株価収益率につきましては、当期純損失が計上されているため記載しておりません。

3. 第68期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第69期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第68期 平成20年3月	第69期 平成21年3月	第70期 平成22年3月	第71期 平成23年3月	第72期 平成24年3月
売上高 (百万円)	420,971	406,512	373,257	383,925	387,388
経常利益又は経常損失 () (百万円)	5,511	3,990	310	1,429	1,023
当期純利益又は当期純損 失() (百万円)	4,330	9,005	395	1,769	2,028
資本金 (百万円)	22,415	28,427	28,427	28,427	28,427
発行済株式総数 (株)	210,482,533	247,482,533	247,482,533	247,482,533	247,482,533
純資産額 (百万円)	106,365	106,126	107,314	105,905	105,479
総資産額 (百万円)	198,325	179,210	186,787	179,866	174,195
1株当たり純資産額 (円)	510.59	432.37	437.11	439.17	452.94
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配 当額) (円)	5.00 (-)	3.00 (-)	3.00 (-)	3.00 (-)	3.00 (-)
1株当たり当期純利益金 額又は1株当たり当期純 損失金額() (円)	20.78	42.94	1.61	7.25	8.44
潜在株式調整後1株当 り当期純利益金額 (円)	-	-	1.61	7.25	8.44
自己資本比率 (%)	53.63	59.18	57.41	58.83	60.52
自己資本利益率 (%)	4.07	8.48	0.37	1.66	1.92
株価収益率 (倍)	28.24	-	220.46	41.08	37.07
配当性向 (%)	24.06	-	186.30	41.35	35.53
従業員数 (人)	2,023	2,363	2,378	2,367	1,888
[外、平均臨時雇用者数]	[1,610]	[1,225]	[1,377]	[1,450]	[1,491]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 中間配当制度は採用しておりません。

3. 第68期の1株当たり配当額には、創業80周年記念配当1円を含んでおります。

4. 第68期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第69期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

5. 第69期の株価収益率及び配当性向につきましては、当期純損失が計上されているため記載しておりません。

2【沿革】

昭和3年4月	創業者伊藤傳三の個人経営として、大阪市北区に食品工業を創業
昭和21年4月	神戸市灘区備後町（現 本店）において、合名会社伊藤食品工業を設立
昭和23年6月	伊藤栄養食品工業株式会社に改組、兵庫県より重要民需産業に指定
昭和34年6月	東京都目黒区三田に目黒工場を新設
昭和35年11月	兵庫県西宮市高畑町に西宮工場を新設
昭和36年1月	伊藤ハム栄養食品株式会社に商号を変更
昭和36年10月	東京、大阪両証券取引所市場第二部及び神戸証券取引所（昭和42年10月閉鎖）に上場
昭和37年6月	豊橋市藤並町字藤並に豊橋工場を新設
昭和42年7月	東京、大阪両証券取引所市場第一部に指定
昭和42年10月	佐賀県三養基郡基山町に九州工場を新設
昭和43年5月	千葉県柏市根戸に東京工場を新設
昭和44年2月	大阪証券取引所貸借銘柄に指定
昭和46年11月	宮城県栗原郡高清水町に東北工場を新設
昭和49年2月	米国サンフランシスコ、カリアニ・ソーセージ社を買収し、イトウ・カリアニソーセージINC.（現 イトウハム・アメリカINC.）（現・連結子会社）を設立
昭和50年2月	㈱東北伊藤ハム（現 伊藤ハムデイリー㈱）（現・連結子会社）を設立
昭和59年3月	千葉県船橋市に船橋工場を新設
昭和59年6月	伊藤ハム株式会社に商号変更
昭和59年8月	佐賀県鳥栖市にカット肉工場として佐賀ミートセンターを新設
昭和60年9月	オーストラリア・シドニーにイトウハムフーズオーストラリアLTD.（現・連結子会社）を設立
昭和63年11月	オーストラリア・シドニーにレノッドホールディングスLTD.（現・連結子会社）を設立
平成元年12月	茨城県北相馬郡守谷町に中央研究所を新設
平成5年6月	神戸市東灘区に六甲工場を新設
平成6年4月	神戸市東灘区に六甲ロジスティクスセンターを新設
平成7年9月	北海道小樽市に小樽工場を新設
平成9年7月	東京都目黒区三田にアルト伊藤ビル（旧 目黒工場）を新設
平成14年7月	東京都目黒区三田に伊藤ハム販売関東㈱を設立 名古屋市中村区に伊藤ハム販売中部㈱を設立 神戸市灘区に伊藤ハム販売関西㈱を設立
平成17年1月	中国北京市に伊藤食品（北京）有限公司（現・連結子会社）を設立
平成17年3月	神戸市東灘区に神戸工場を新設
平成18年4月	伊藤ハム販売関東㈱が、伊藤ハム販売中部㈱及び伊藤ハム販売関西㈱と合併し、伊藤ハム販売㈱（現・連結子会社）に商号変更 伊藤ハム関東ミート販売㈱が、伊藤ハム首都圏ミート販売㈱と合併し、伊藤ハムミート販売東㈱（現・連結子会社）に商号変更
平成18年7月	中国上海市に伊藤食品商貿（上海）有限公司（現・連結子会社）を設立
平成18年10月	伊藤ハム関西ミート販売㈱が、伊藤ハム中部ミート販売㈱、伊藤ハム九州ミート販売㈱及び沖縄伊藤ハム㈱と合併し、伊藤ハムミート販売西㈱（現・連結子会社）に商号変更
平成23年6月	宝永物産㈱を吸収合併
平成23年7月	佐賀県三養基郡基山町に伊藤ハムウエスト㈱（現・連結子会社）を設立 兵庫県西宮市にアイエイチロジスティクスサービス㈱（現・連結子会社）及び伊藤ハムヒューマンサービス㈱（現・連結子会社）を設立
平成23年10月	千葉県船橋市の船橋工場を閉鎖 伊藤ハムデイリー㈱が伊藤ハム食品㈱を吸収合併

3【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社30社及び関連会社11社で構成され、食肉加工品（ハム・ソーセージ、調理加工食品）及び食肉等の製造販売を主な内容として事業活動を展開しております。

なお、次の2部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

（加工食品事業本部）

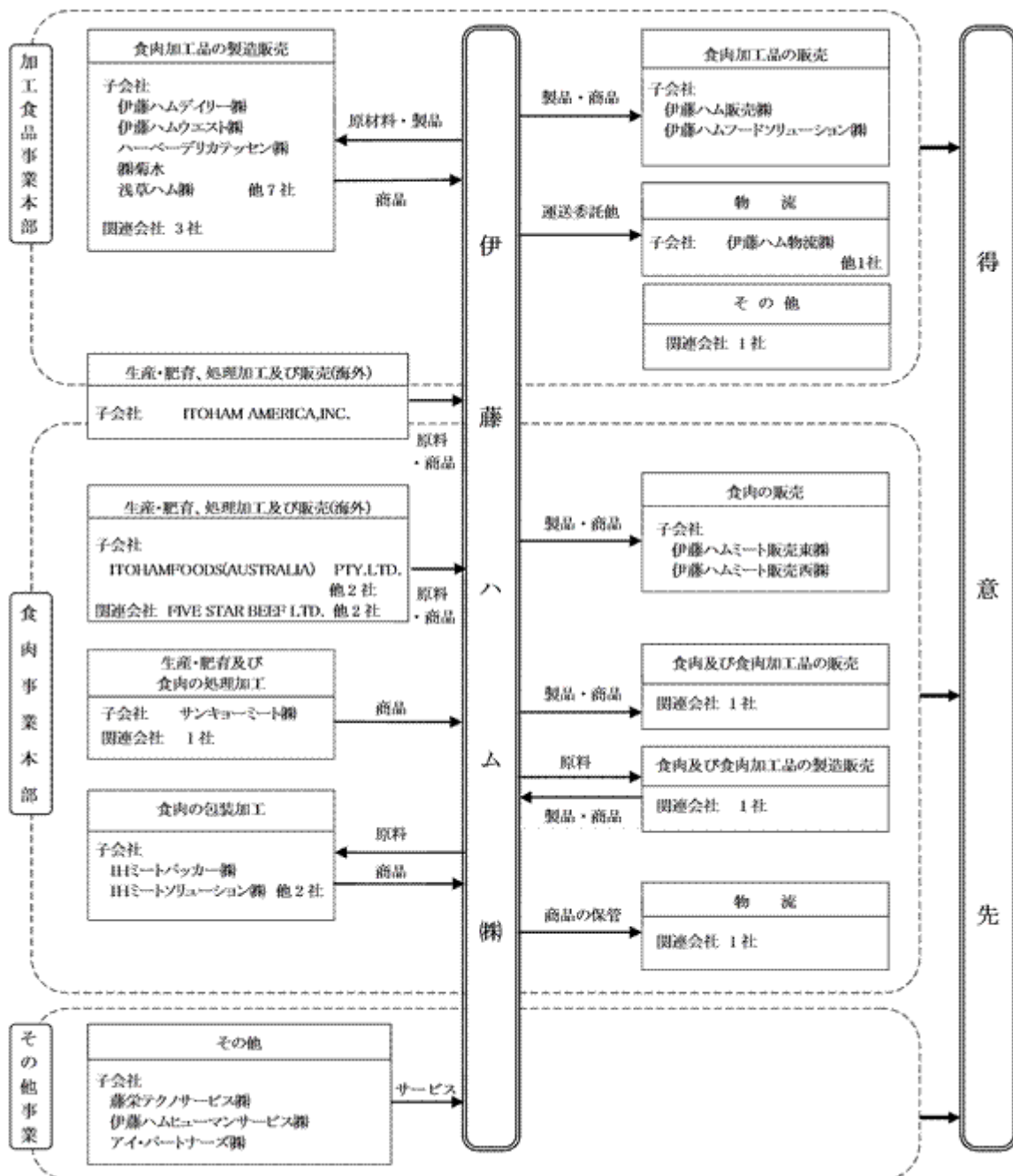
加工食品事業部門は、当社、子会社16社及び関連会社4社で構成され、ハム・ソーセージ、調理加工食品等の食肉加工品の製造・販売を行っております。

（食肉事業本部）

食肉事業部門は、当社、子会社11社及び関連会社7社で構成され、食肉及び調理加工食品の製造・販売を行っております。

（その他事業）

その他事業部門は、子会社3社で構成され、人材派遣業、事務代行サービス業並びに保険の代理業を行っております。事業の系統図は次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の所有 割合又は 被所有割合 (%)	関係内容
連結子会社 伊藤ハムデイリー(株)	宮城県栗原市	500	加工食品事業本 部	100	相互に原材料及び食肉加工品の供給を行っ ている。 役員の兼任あり。
ハーベードリカテッセン(株)	愛知県豊橋市	25	同上	100	相互に原材料及び食肉加工品の供給を行っ ている。
(株)菊水	北海道江別市	180	同上	83.20	当社調理加工食品(麺類)を製造している。 役員の兼任あり。
浅草ハム(株)	東京都台東区	125	同上	60	相互に原材料及び食肉加工品の供給を行っ ている。
(株)大龍 (注)5	東京都調布市	270	同上	100	当社調理加工食品(中華惣菜)を製造して いる。 資金援助あり。
イトウフレッシュサラダ(株)	東京都目黒区	80	同上	95	当社調理加工食品を製造している。
筑紫ファクトリー(株)	北九州市八幡西区	45	同上	100	相互に原材料及び食肉加工品の供給を行っ ている。
ロイヤルデリカ(株)	群馬県高崎市	98	同上	100	資金援助あり。
城山ハム(株)	兵庫県西宮市	60	同上	100	当社食肉加工品の製造を行っている。
伊藤ハムウエスト(株)	佐賀県三養基郡 基山町	90	同上	100	相互に原材料及び食肉加工品の供給を行っ ている。 役員の兼任あり。
伊藤ハムフードソリュー ション(株)	東京都目黒区	100	同上	100	当社食肉加工品を主に百貨店を中心に販売 している。 役員の兼任あり。
伊藤ハム販売(株)	兵庫県西宮市	90	同上	100	当社食肉加工品を販売している。 役員の兼任あり。
伊藤ハムミート販売東(株) (注)2,7	東京都目黒区	90	食肉事業本部	100	当社食肉の販売を行っている。 役員の兼任あり。
伊藤ハムミート販売西(株) (注)2,7	兵庫県西宮市	90	同上	100	当社食肉の販売を行っている。 役員の兼任あり。
サンキョーミート(株)	鹿児島県志布志市	230	同上	100	当社食肉の生産及び製造を行っている。 役員の兼任あり。 資金援助あり。
I Hミートソリューション (株)	東京都目黒区	80	同上	100	当社食肉の包装加工を行っている。 役員の兼任あり。 資金援助あり。
I Hミートパッカー(株) (注)2	東京都目黒区	90	同上	100	当社食肉の包装加工を行っている。
沖縄フレッシュパック(株)	沖縄県沖縄市	60	同上	100 (50)	当社食肉の包装加工を行っている。
(株)藤栄	名古屋市港区	50	同上	100	当社食肉の包装加工を行っている。 資金援助あり。

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の所有割合又は 被所有割合 (%)	関係内容
伊藤ハム物流㈱	兵庫県西宮市	90	加工食品事業本部	100	当社食肉加工品を当社の販売拠点に対して運送している。
アイエイチロジスティクスサービス㈱	兵庫県西宮市	90	同上	100	当社食肉加工品を当社の販売拠点に対して運送している。
藤栄テクノサービス㈱	東京都目黒区	30	その他	100	当社に人材派遣を行っている。
アイ・パートナーズ㈱	兵庫県西宮市	10	同上	100	保険の代理業務を行っている。
伊藤ハムヒューマンサービス㈱	兵庫県西宮市	30	同上	100	当社人事・庶務等に関する事務代行業務を行っている。
ITOHAM AMERICA, INC.	DENVER COLORADO U. S.A.	(U S \$ 17,700千)	食肉事業本部	100	当社食肉加工品の製造を行っている。 役員の兼任あり。
ITOHAM FOODS (AUSTRALIA)PTY.LTD. (注) 2, 5	NEWSOUTHWALES AUSTRALIA	(A \$ 46,000千)	同上	100	当社食肉の仕入を行っている。 役員の兼任あり。
RENOD HOLDINGS PTY.LTD. (注) 2, 5	NEWSOUTHWALES AUSTRALIA	(A \$ 45,000千)	同上	100 (100)	当社食肉加工品及び食肉の輸出手続きを行っている。 役員の兼任あり。
ROCKDALE BEEF PTY.LTD. (注) 5	NEWSOUTHWALES AUSTRALIA	(A \$ 100)	同上	75 (75)	当社食肉の生産を行っている。 役員の兼任あり。
伊藤食品(北京)有限公司 (注) 5	中国 北京市	(U S \$ 2,800千)	加工食品事業本部	100	食肉加工品の製造を行っている。 役員の兼任あり。
伊藤食品商貿(上海)有限公司	中国 上海市	(U S \$ 2,450千)	同上	100	食肉加工品の販売・輸出入を行っている。 役員の兼任あり。 資金援助あり。

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の所有割合又は 被所有割合 (%)	関係内容
持分法適用関連会社 (株)江戸清	横浜市中区	20	食肉事業本部	30 (30)	当社食肉加工品の製造を行っている。 役員の兼任あり。
(株)メイショク	神戸市兵庫区	48	加工食品事業本部	30	当社調理加工食品の製造を行っている。
(株)ジャパンデリカ	香川県高松市	23.5	同上	40.43	調理加工食品の製造販売を行っている。
サンキョー食品(株)	神戸市兵庫区	10	食肉事業本部	30	当社食肉加工品を主に近畿地方を中心に販売している。 役員の兼任あり。
坂元ファーム(株)	鹿児島県鹿屋市	10	同上	45 (45)	牛豚の生産肥育等を行っている。
(株)東冷	神戸市東灘区	466	同上	20	当社食肉の保管等を行っている。
FIVE STAR BEEF LTD.	WELLINGTON NEWZEALAND	(NZ \$ 15,000千)	同上	50	当社食肉の生産及び製造を行っている。 役員の兼任あり。
INDIANA PACKERS CORP.	DELAWARE U.S.A.	(US \$ 20,000千)	同上	20	当社食肉の製造を行っている。 役員の兼任あり。
ANZCO FOODS LTD.	CHRISTCHURCH NEWZEALAND	(NZ \$ 59,364千)	同上	48.28	当社食肉の輸出を行っている。 役員の兼任あり。
ITOHAM BETAGRO FOODS CO.,LTD.	LOPBURI THAILAND	(THB 172,000千)	加工食品事業本部	45	当社食肉加工品の製造を行っている。 役員の兼任あり。
M I Y (株)	東京都千代田区	4,951	同上	33.33	中国国内における食肉関連事業への投資等 を行っている。 役員の兼任あり。
その他の関係会社 三菱商事(株) (注)6	東京都千代田区	204,446	総合商社	被所有 21.38	当社へ食肉及び原材料の供給を行っている。

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 連結子会社及び持分法適用関連会社のうち有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。

4. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数となっております。

5. 現在事業を一部停止しており、清算可能な状態になり次第、清算を行う予定にしております。

6. 有価証券報告書を提出しております。

7. 伊藤ハムミート販売東(株)及び伊藤ハムミート販売西(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

	伊藤ハムミート販売東(株)	伊藤ハムミート販売西(株)
(1) 売上高 (百万円)	89,492	95,670
(2) 経常利益 (百万円)	348	564
(3) 当期純利益 (百万円)	156	274
(4) 純資産額 (百万円)	547	1,071
(5) 総資産額 (百万円)	12,869	13,466

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
加工食品事業本部	3,591 (4,739)
食肉事業本部	1,453 (725)
報告セグメント計	5,044 (5,464)
その他	74 (589)
全社共通ほか	190 (40)
合計	5,308 (6,093)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外からの当社グループへの出向者を含んでおります。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー等)は、当連結会計年度の平均人員を()外数で記載しております。
2. 全社共通ほかとして記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。
3. 従業員数が前連結会計年度末に比べ563名減少した主な要因は、希望退職の実施や事業の撤退によるものであります。

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,888(1,491)	42.8	15.6	5,981,168

セグメントの名称	従業員数(人)
加工食品事業本部	1,475 (1,371)
食肉事業本部	223 (80)
報告セグメント計	1,698 (1,451)
その他	- (-)
全社共通ほか	190 (40)
合計	1,888 (1,491)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含んでおります。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー等)は、当事業年度の平均人員を()外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、時間外勤務手当等及び賞与を含んでおります。
3. 全社共通ほかとして記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。
4. 従業員数が前事業年度末に比べ479名減少した主な要因は、希望退職の実施やグループ再編に伴う移籍等によるものであります。

(3) 労働組合の状況

当社労働組合及び国内連結子会社10社の労働組合8団体は、伊藤ハムグループ労働組合連合会を結成し、日本食品関連産業労働組合総連合会に所属しております。平成24年3月31日現在の組合員数は3,456名であり、労使関係は円満であります。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度のわが国経済は、東日本大震災による落ち込みから緩やかに持ち直してきましたが、欧州債務危機に伴う為替変動や海外経済の下振れリスクが意識される中で、原油高の影響や電力需給の逼迫懸念が強まるなど、依然として景気の先行きが見通せない不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましても、震災復興等による需要の増加も一部見られるものの、食中毒事件や放射性セシウムによる肉牛の汚染問題により食肉の販売環境が急激に悪化したことなど、当社事業を取り巻く環境は大変厳しい状況となりました。

このような状況の下、当社グループは、昨年公表した5ヵ年の新中期経営計画「CNV2015」（平成23年1月31日公表）に基づいて、その基本戦略である「構造改革」と「成長戦略」の実行に取り組んでおります。初年度となる当期におきましては、上期には希望退職の実施や船橋工場閉鎖等の生産拠点の再編、下期には、加工食品事業における製販一体の地域子会社、物流機能並びに業務支援機能のグループ再編や人事制度改革など、構造改革に重点を置いた施策を着実に実行し、より強い筋肉質の企業体質の構築と業績目標の達成に向けて全社一丸となって取り組んでまいりました。また、成長戦略におきましても、食肉子会社サンキョーミート(株)の生産設備の増強等による食肉バリューチェーンの拡大を推し進めるとともに、中国の中糧集团有限公司（COFCO）との合弁会社に参画するなど中国市場への本格的進出にも着手いたしました。

当連結会計年度の業績につきましては、売上高は、中元・歳暮ギフトが低迷する中でハム・ソーセージの売上が前年同期に比べて増加いたしました。また、「CNV2015」の実行に伴う不採算商品の撤退・縮小や惣菜子会社の売却により調理加工食品の売上が大幅に減少したことや、食肉においては鶏肉の販売を大きく伸ばす一方で、牛肉の売上がセシウム問題等による消費減退と相場下落、また豪州での牛肉の生産・販売事業からの撤退に伴い減少したことから、売上高全体としては前年同期より85億8千9百万円減少して4,473億9千9百万円（前年同期比1.9%減）となりました。利益面につきましては、惣菜子会社の売却、中元・歳暮ギフトの不振、加工食品の原材料価格の高騰並びに鶏肉の収益性悪化等により売上総利益が減少しましたが、営業利益は、構造改革を着実に実行したことに伴うコスト削減効果により前年同期に比べて3億9千9百万円増加して28億8千万円（前年同期比16.1%増）、経常利益は、前年同期に比べて5億7千6百万円増加して44億1百万円（前年同期比15.1%増）となりました。当期純利益につきましては、前期特別利益に計上した土地の売却益はなくなりましたが、構造改革の実行に伴う特別損失が前年同期に比べて大幅に減少したことなどから、15億8千1百万円増加して20億6千万円（前年同期比330.3%増）となりました。

〔セグメント別の概況〕

セグメント別の業績の概況は、以下のとおりであります。なお、当社（親会社）の本部及び間接部門に係る費用等の全社費用につきましては、前連結会計年度まで各報告セグメントへ配賦しておりませんでした。経営管理の手法を見直した結果、当連結会計年度より各報告セグメントに配賦する方法に変更しております。これに伴い、前年同期のセグメント利益につきましても変更後の算定方法により組み替えております。

（加工食品事業本部）

ハム・ソーセージにつきましては、「アルトバイエルン」「朝のフレッシュシリーズ」「ロイヤルボール」「ベルガヴルストシリーズ」にキャンペーンを実施し、販売促進やブランド力強化に取り組みました。ギフトにつきましては前年同期の売上高を下回りましたが、業務用商品の売上高が順調に伸びたこともあり、ハム・ソーセージ全体としては、前年同期に比べて売上高は増加いたしました。

調理加工食品につきましては、主力商品であるチルドピザ「ラ・ピッツアシリーズ」及びコンビニエンスストア向けの「ピザ・スナック類」の売上高が好調に推移いたしました。また、収益性の低い商品のアイテムカットを行ったため、「ハンバーグ・ミートボール」「料理品」等で前年同期の売上高を下回りました。また、構造改革による惣菜子会社売却の影響により、調理加工食品全体としては前年同期に比べて大幅に売上高が減少いたしました。

この結果、加工食品事業本部の外部顧客に対する売上高は、2,345億1千7百万円（前年同期比2.1%減）、営業利益は28億7千5百万円（前年同期比125.0%増）となりました。

(食肉事業本部)

国産牛肉につきましては、東日本大震災以降、焼肉チェーンでの食中毒事件や放射性セシウム問題によって需要の減退と相場下落が続きました。国産豚肉相場も後半弱含みとなりました。当社グループはサンキョーミート㈱（鹿児島県）の牛・豚肉カットラインを増強し拡販を図りましたが、国産牛肉・豚肉ともに前年同期の売上高を確保することができませんでした。輸入牛肉の売上高は前年同期に売却いたしましたロックデールビーフ事業の影響を除くと、前年同期並みとなりました。輸入豚肉も国内販売を取り巻く競争が厳しい状況でしたが、自社ブランド商品を中心に取扱数量を増加させました。鶏肉につきましては、輸入鶏肉を中心に新規顧客を獲得し販売シェアを伸ばしましたが、秋以降の需給バランス悪化により国産・輸入相場とも下落したことが影響し収益性を落としました。

この結果、食肉事業本部の外部顧客に対する売上高は、2,123億1千万円（前年同期比1.6%減）、営業利益は7千万円の損失（前年同期は10億1千8百万円の利益）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ84億2千万円減少し、262億8千5百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動の結果支出した資金は、24億3千万円（前連結会計年度は76億3千5百万円の収入）となりました。増加要因の主なものは、税金等調整前当期純利益25億5千9百万円、たな卸資産の減少61億4千8百万円、非資金項目の減価償却費59億6千8百万円であります。一方減少要因の主なものは、仕入債務の減少94億2千2百万円、売上債権の増加56億6千8百万円、特別退職金の支払30億9千3百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動の結果支出した資金は、84億9千4百万円（前連結会計年度は1億1千8百万円の支出）となりました。これは主に既設工場の設備更新など固定資産の取得により49億7千7百万円及び新規関連会社株式の取得により33億円の支出があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動により得られた資金は、25億8千2百万円（前連結会計年度は127億6百万円の支出）となりました。これは主に、借入金の純増による収入64億8千9百万円と、自己株式の取得26億6千6百万円及び配当金の支払いによる7億1千8百万円の支出があったことによるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
加工食品事業本部(百万円)	105,934	100.8
食肉事業本部(百万円)	79,964	89.6
報告セグメント計(百万円)	185,899	95.7
その他(百万円)	-	-
合計(百万円)	185,899	95.7

- (注) 1. 当社グループ製品の製造原価によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当社グループは見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
加工食品事業本部(百万円)	234,517	97.9
食肉事業本部(百万円)	212,310	98.4
報告セグメント計(百万円)	446,827	98.1
その他(百万円)	572	84.6
合計(百万円)	447,399	98.1

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺処理しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

日本は大量の団塊世代の年金生活入りを迎え、本格的に成熟した超高齢化社会を迎えつつあります。必然的に税制と社会保障のあるべき姿の合意形成が政治の喫緊の課題となっております。また、昨年の東日本大震災の被害とそれに続く福島原発由来の放射線の問題は、改めて安全性と経済性の観点から今後のエネルギー政策の在り方を含め、この国をどのようなかたちにしていくのか国民的な議論が必要になってきております。

このような環境下、当社は食に携わる企業として、安全・安心とおいしさに加え、国民生活の変化に対応した新しい価値を持つ商品・サービスをお客様に提供し続けてまいります。そのためにも、現在の中期経営計画「CNV2015」を確実に達成し、商品力とコスト競争力を強化し、ナショナルブランドメーカーとして成長を目指します。

また、同時に成長を続ける中国や東南アジアにおいては、中国COCO社との合弁事業及びタイ国BETAGRO社との合弁事業を軌道に乗せ拡大を図ることを基本とし、徐々に経営資源を投入してまいります。

なお、地震などの自然災害への対策につきましては、昨年来見直し強化策を策定中であり、東海地震を想定した事業継続計画は既に作成済みですが、現在、首都直下地震等、対象エリアを広げ強化策を策定中であり、

[目標とする経営指標と中期的な経営戦略]

当社グループは平成23年度から平成27年度までの5カ年のグループ中期経営計画（CNV2015）を策定いたしました。定量目標といたしましては平成27年度の連結売上高5,300億円、連結経常利益160億円、連結売上高経常利益率3%をグループ目標としております。

5カ年グループ中期経営計画は「構造改革」と「成長戦略」の2つの基本戦略から構成されております。抜本的な構造改革によりコスト競争力を強化し、その上で成長戦略に取り組んでまいります。

<経営ビジョン>

- ・アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる

<中期経営方針>

- ・コンプライアンス体制のさらなる充実

あらゆる企業活動の大前提はコンプライアンスであるとの考えのもと、引き続き体制の充実を図ってまいります。同時にコーポレート・ガバナンス強化の観点から、業務執行に対する監督機能の一層の強化を図るとともに、経営の透明性をより高めることを目的として、社外取締役を導入しております。

- ・人材の育成

従来からの社内外研修を更に充実させると同時に中長期的な視点に立ち計画的な異動ローテーションを導入し、経験の付与とチャレンジ精神の喚起を行い、次世代リーダーの育成と組織の活性化を図ります。また、積極的な人材登用を行い、ジョブチャレンジなどのキャリア支援の仕組みを導入し、社員一人ひとりのキャリア形成を促進いたします。

- ・営業力・生産力をはじめとする現場力の強化

現場こそがメーカーにとって価値を生み出すところであり、それぞれの現場に熟練のプロがいて、圧倒的な生産性と競争力を持ち、同時に仕組みや組織を目的に合わせて自発的に改善、改革していく、そのような現場の力を強化してまいります。

- ・お客様目線での商品開発を伴うマーケティング力の強化

市場の変化、お客様の変化を半歩でも先取りし需要を創造する、すなわち新しい価値を創造することがこれからのメーカーにとり最も重要な課題になります。商品開発・マーケティング部門に有能な人材を投入し、組織改訂を行い体制の整備をすすめ、コンシューマー商品に加えて、業務用商品の開発力、マーケティング力も強化してまいります。

- ・コスト競争力の強化

組織及び関連会社の見直し、国内外の生産基地の見直し、人事制度改革などの抜本的な構造改革により無駄や贅肉を落とし、より強い筋肉質の厳しい経済環境の中でも成長をしつづけられる企業体質にしてまいります。

< 事業戦略 >

・ 全社戦略

中食・外食チャネルへの対応力強化による売上拡大を図るため、チャネル対応の組織に本部商談スタッフと商品開発要員の投入により機能強化を図ります。まずは加工食品事業本部、食肉事業本部それぞれで販売力の強化を図り、将来的には両事業本部から切り離し、独立したチャネル対応組織への再編を予定しております。

・ 加工食品事業

主力商品へ資源を集中することにより販売力・生産力の強化を図ります。収益性の低い商品を改廃し、取扱いアイテム数を削減することにより生産・物流・販売の生産性を高めます。高品質で低コストの商品を供給する力を強化するために社内プロジェクトを立ち上げ取り組んでまいります。

・ 食肉事業

食肉バリューチェーンの創造と拡大を図るため、バリューチェーンの川上となる国内外の畜産事業を拡大し安定的な供給力を確保し販売の拡大を図ります。また、グループ会社の食肉一次加工機能を高め、お客様のニーズにマッチする商品の開発力を強化することにより、中食・外食企業や小売業などのよりお客様に近いお得意先様へ販売するビジネスモデルを推進し収益性の向上を図ります。

・ 海外事業

将来を見据え、成長著しいアジア市場に対応するために、中でも有望な中国市場での事業拡大を目的に当社、三菱商事(株)、米久(株)3社の共同出資の投資会社であるM I Y(株)を通じて、中国最大の食肉関連国有企業である中糧集団有限公司(COFCO)との合併事業を推進してまいります。また、ASEAN諸国のハブとなるタイでの高級ハム・ソーセージ市場への取り組みを強化いたします。FTA、TPP等によるグローバル化、ボーダーレス化の進展を見据え、海外拠点を充実させて日本向け生産も拡大いたします。

なお、文中における将来に関する事項及び経営指標等につきましては、当社グループが判断した一定の前提に基づいたものであります。これらの記載は、実際の結果と異なる可能性があり、その達成を保証するものではありません。

4【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 市況変動リスク

当社グループは食肉及び食肉加工食品を中心に扱っており、販売用食肉、ハム・ソーセージ、調理加工食品などの原材料となる畜産物の日本国内及び海外の相場変動によるリスクを受けます。

特に、BSE、鳥インフルエンザ及び口蹄疫等の獣疫の発生や輸入豚肉、輸入牛肉を対象としたセーフガード発動等により仕入数量の制限や仕入価格の上昇が考えられ、また需給バランスの崩れや消費者ニーズの変化等により販売価格が下がるリスクがあります。

さらに、食肉を供給する生産飼育事業においては、畜産物相場に加え飼料価格の変動も受けます。また、包装資材などの調達費や運送費等は原油価格等の変動の影響を受けます。従いまして、これらの事象は当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 為替レートの変動

当社グループは、海外から外貨建ての輸入業務を行っており、これらの国の現地通貨に対する為替レートの変動が業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、通貨ヘッジ取引を行い、主要通貨間の為替レートの短期的な変動による悪影響を最小限に止める努力をしておりますが、中長期的な通貨変動により、計画された調達、製造、流通及び販売活動を確実に実行できない場合があるため、為替レートの変動は当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(3) 価格競争

食肉及び食肉加工品を含む食肉業界ならびに調理加工食品等の食品業界における競争はたいへん厳しいものとなっております。また、小売・外食等での販売競争も熾烈となっております。当社グループは、各製品市場と地域市場において、競争の激化に直面すると予想されます。

当社グループは、安全・安心はもとより、高品質で高付加価値の製品を送り出すリーディングメーカーの一社であると考えて一方で、将来においても有効に競争できるという保証はありません。価格面での圧力または有効に競争できないことによる顧客離れは、当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

高付加価値と低価格との二極化の中で、当社グループは、低コスト・低価格の競合先に対して市場シェアを維持もしくは拡大し、収益性を保つことができない可能性があります。

(4) 国際的活動及び海外進出に潜在するリスク

当社グループの生産及び販売活動の一部は、豪州、アジア、米国ならびにヨーロッパ等の日本国外で行われております。これらの海外市場への事業進出には以下に掲げるようないくつかのリスクが内在しております。

予期しない法律または規制の変更

不利な政治または経済要因

人材の採用と確保の難しさ

潜在的に不利な税影響

テロ、戦争、伝染病等の要因による社会的混乱

当社グループは、競争力のある製品の製造と原料肉の調達とコスト削減のために、海外における生産及び原料と食肉の調達の規模拡大を続けてまいりました。しかし、それぞれの国における政治または法環境の変化、天候不順、飼料価格の高騰、経済状況の変化など、予期せぬ事象により生産設備の管理やその他の事業の遂行に問題が生じる可能性があります。従いまして、これらの事象は当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(5) 知的財産保護の限界

当社グループは、他社製品と差別化できる技術とノウハウを蓄積してまいりましたが、当社グループ独自の技術とノウハウの一部は、特定の地域では法的制限のため知的財産権による完全な保護が不可能、または限定的にしか保護されない状況にあります。そのため、第三者が当社グループの知的財産を使って類似した製品を製造するのを効果的に防止できない可能性があります。

また、他社が類似する、もしくは当社グループより優れている技術を開発したり、当社グループの特許や企業秘密の模倣を防止できない可能性があります。さらに、当社グループの将来の製品または技術は、将来的に他社の知的財産権を侵害しているとされる可能性もあります。

(6) 製品の欠陥

当社グループは、世界中の工場と肥育場で、世界的に認められている品質管理基準に従って各種の製品の製造や牛・豚の肥育をしております。しかし、全ての製品について欠陥が無く、将来にリコールが発生しないという保証はありません。また、製造物責任賠償については保険に加入しておりますが、この保険が最終的に負担する賠償額を十分にカバーできるという保証はありません。

さらに、引き続き当社グループがこのような保険に許容できる条件で加入できるとは限りません。大規模なリコールや製造物責任賠償につながるような製品の欠陥は、多額のコストや当社グループの評価に重大な影響を与え、それにより売上が低下し、当社グループの業績と財務状況に悪影響が及ぶ可能性があります。

(7) 他社との提携等の成否

当社グループは、技術開発の一環として、経営資源を最適化し、技術の集約による相乗効果を利用するために、コラボレーション、技術提携や合併の形で多くの他社と共同での活動を行っております。

当社グループは、引き続きこのような機会を前向きに活用する予定であります。しかし、経営、財務またはその他の理由により当事者間で不一致が生じた場合、効果的な開発による結果を享受できず、当社グループの業績と財務状況に悪影響が及ぶ可能性があります。

(8) 公的規制

当社グループは、事業展開する各国において、事業・投資の許可、国家安全保障またはその他の理由による輸出制限、関税や獣疫等によるその他の輸出入規制等、様々な政府規制の適用を受けております。

また、通商、独占禁止、食品衛生、下請、特許、消費者、租税、証券取引、為替管制、環境・リサイクル関連の法規制の適用もを受けております。これらの規制を遵守できなかった場合、当社グループの活動が制限される可能性があります。

また、規制を遵守できなかった場合は、コストの増加につながる可能性があります。従いまして、これらの規制は当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(9) 災害や停電等による影響

当社グループは、製造ラインの中断による潜在的なマイナス影響を最小化するために、全ての設備における定期的な災害防止検査と設備点検を行っております。しかし、生産施設で発生する災害、停電またはその他の中断事象による影響を完全に防止または軽減できる保証はありません。

例えば当社グループの主力製品は、現在千葉県柏市、兵庫県西宮市、愛知県豊橋市、佐賀県基山町等で製造しており、該当地域での大規模な地震やその他の操業を中断する事象が発生した場合、当社製品の生産能力が著しく低下する可能性があります。

(10) 退職給付債務

当社グループの従業員退職給付費用及び債務は、割引率等数理計算上で設定される前提条件や年金資産の期待収益率に基づいて算出されております。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、その影響は累積され、将来にわたって定期的に認識されるため、一般的には将来期間において認識される費用及び計上される債務に影響を及ぼします。割引率の低下や運用利回りの悪化は当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(11) 食品の安全性

食品の安全性がますます強く求められる中、当社グループでは、国際的に認められている管理基準を取得し、品質保証部による厳しい品質管理体制のもと製品の安全性と品質の確保に万全を期しております。

しかしながら、当社グループにおいても、偶発的な事由によるものを含めて、異物混入や誤表示など、消費者に健康被害を及ぼす恐れのある製品事故が発生する可能性があるほか、当社グループの取り組みの範囲を超えた品質問題等が発生した場合や、その対応に遅れ・誤りがあった場合には、当社グループの評価が低下し、売上高の減少や多額のコスト発生などにより、当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループの研究開発につきましては、基礎研究を中央研究所が行い、全社的な商品開発は加工食品事業本部の開発部門が中心となり、マーケティング部門と連携を取りながら新商品の企画立案、商品化を推進しております。

基礎研究の分野では、食肉加工技術の強化、独創的な新規製法の開発、食を通じたヒトの健康への寄与を基本方針としております。また、食品の安全性に関する分析検査体制や官能評価検査体制の拡充も順調に進んでおり、新商品の設計やお客様へのご提案にも有意義に活用しております。

商品開発の分野では、薄皮タイプで肉本来の旨味を、食べた瞬間に体感できる「じゅわり 特級ポークウインナー」を発売いたしました。レンジで調理できる上、冷めても固くならずおいしく召し上がれる仕上がりでウインナーの新しい「おいしさのかたち」をご提案しております。

なお、当連結会計年度の研究開発費の総額は、8億7千3百万円であります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの分析は、以下のとおりであります。

(1) 財政状態の分析

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は1,106億6千1百万円（前連結会計年度末は1,197億7千7百万円）となり91億1千6百万円減少いたしました。これは主に、連結会計年度末が金融機関休業日であったことによる影響等により受取手形及び売掛金53億8千7百万円が増加したものの、現金及び預金と有価証券82億7千万円の減少及び原材料等のたな卸資産62億4千6百万円の減少があったことによるものであります。

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は872億7千6百万円（前連結会計年度末は847億7千9百万円）となり、24億9千6百万円増加いたしました。これは主に、関連会社株式等の取得による投資有価証券34億6千7百万円と有形及び無形固定資産において工場設備の更新等により56億2千3百万円増加したものの、減価償却費59億6千8百万円と減損損失7億4千3百万円の減少があったことによるものであります。

(流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は612億6千2百万円（前連結会計年度末は618億2千8百万円）となり、5億6千6百万円減少いたしました。これは主に、一年以内に償還予定の社債100億円及び短期借入金4億7千2百万円と未払消費税等4億4千6百万円が増加したものの、輸入手形減少等に伴う支払手形及び買掛金96億1千3百万円と希望退職による特別退職金の支払等による未払金20億5千2百万円の減少があったことによるものであります。

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は209億3千9百万円（前連結会計年度末は259億9千9百万円）となり、50億5千9百万円減少いたしました。これは主に、シンジケートローン等による長期借入金59億5千4百万円が増加したものの、社債の償還期限が一年以内に到達したことによる社債100億円と繰延税金資産計上に伴う繰延税金負債4億9千2百万円及びリース債務2億4千2百万円の減少があったことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は1,157億3千5百万円（前連結会計年度末は1,167億2千9百万円）となり、9億9千3百万円減少いたしました。これは主に、当期純利益計上及び剰余金の配当に伴う利益剰余金13億3千7百万円と保有株式価格の上昇等によるその他有価証券評価差額金8億2千4百万円の増加があったものの、自己株式取得に伴う自己株式25億2千9百万円と為替相場の変動による為替換算調整勘定5億4百万円の減少があったことによるものであります。

(2) 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は4,473億9千9百万円（前年同期比1.9%減）、売上原価は3,630億6百万円（前年同期比0.3%減）となりました。

販売費及び一般管理費は主に人件費及び広告宣伝費が減少したことにより、815億1千2百万円（前年同期比9.0%減）となりました。

営業損益は主に加工食品の原材料価格の高騰や食肉販売の利益率が悪化したものの、構造改革実行に伴うコスト削減により販売費及び一般管理費が減少し、前連結会計年度の24億8千1百万円の利益から28億8千万円の利益となりました。

営業外収益（費用）は前連結会計年度の13億4千3百万円（純額）の利益から15億2千万円（純額）の利益となりました。これは主に、支払利息が減少したことによるものであります。

特別利益（損失）は前連結会計年度の57億1千1百万円（純額）の損失から18億4千1百万円（純額）の損失となりました。これは主に、前年同期において計上した遊休土地売却に伴う固定資産売却益が減少したものの、固定資産の減損損失や特別退職金及び震災に伴う災害による損失が減少したことによるものであります。

これらの結果、法人税、住民税及び事業税や法人税等調整額、少数株主損益を差し引いた当期純損益は前連結会計年度より15億8千1百万円増加の20億6千万円の利益となりました。1株当たりの当期純損益は前連結会計年度の1.96円の利益に対し8.57円の利益となりました。

(3) キャッシュ・フローの分析

(キャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローでは前連結会計年度より100億6千5百万円多い24億3千万円の資金を使用しました。これは主に、税金等調整前当期純利益を計上したことと、たな卸資産が減少したものの、売上債権の増加と仕入債務の減少に加えて、特別退職金の支払があったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローでは前連結会計年度より83億7千5百万円多い84億9千4百万円の資金を使用しました。これは主に、有形固定資産の売却による収入が減少したことに加えて、新規に係会社株式取得による支出があったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローでは前連結会計年度より152億8千9百万円多い25億8千2百万円の資金を得ました。これは主に、短期借入金が純増加したことと、長期借入金の返済による支出が増加したことによるものであります。配当金の支払には前連結会計年度より1千7百万円少ない7億1千8百万円を使用しております。

これら活動の結果及び為替レートの変動が海外子会社の現金及び現金同等物の円換算額に与えた影響により、現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度より84億2千万円減少し、262億8千5百万円となりました。

(キャッシュ・フローの指標)

	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期
自己資本比率(%) (注) 1	54.8	56.7	58.2
時価ベースの自己資本比率(%) (注) 2	40.0	35.1	36.8
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年) (注) 3	1.6	3.2	-
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍) (注) 4	33.5	14.6	-

(注) 1. 自己資本比率：自己資本 / 総資産

2. 時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

3. キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

4. インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

* 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

* 株式時価総額は、期末株価終値 × 期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

* キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。

有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

なお、セグメント別の分析等は「第2 [事業の状況] 1 [業績等の概要] (1) 業績」項目をご参照ください。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループは、技術革新や販売競争の激化に対処するため、加工食品事業本部、食肉事業本部を中心に56億2千3百万円の設備投資を実施いたしました。

加工食品事業本部におきましては、省力化、合理化及び製品の信頼性向上のための設備改善等を東京工場を中心に37億8千7百万円の設備投資を実施いたしました。

食肉事業本部におきましては、製品の増産及び信頼性向上のための設備改善等をサンキョーミート(株)を中心に16億1千4百万円の設備投資を実施いたしました。

また、当連結会計年度におきまして、加工食品事業本部の調理加工食品製造工場の閉鎖等に伴う減損損失（7億4千3百万円）を計上しております。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)	
			建物 及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び 運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)		合計 (百万円)
東京工場 (千葉県柏市)	加工食品事業本部	ハム・ソーセージ、 調理加工食品製造 設備	1,415	1,857	280 (54,636)	5	32	3,591	302 [474]
豊橋工場 (愛知県豊橋市)	加工食品事業本部	ハム・ソーセージ、 調理加工食品製造 設備	689	1,257	41 (47,600)	104	14	2,108	160 [216]
西宮工場 (兵庫県西宮市) (注)2	加工食品事業本部	ハム・ソーセージ、 調理加工食品製造 設備	893	1,869	80 (41,581)	21	22	2,887	297 [410]
六甲工場 (神戸市東灘区)	加工食品事業本部	ハム・ソーセージ 製造設備	588	428	1,982 (19,988)	-	12	3,012	76 [52]
神戸工場 (神戸市東灘区)	加工食品事業本部	調理加工食品 製造設備	720	704	- (-)	-	6	1,431	31 [22]
本社事務所 (兵庫県西宮市)	全社共通	統括業務施設	311	0	- (-)	-	135	447	143 [33]
東京事務所 (東京都目黒区)	全社共通	統括業務施設	1,051	1	168 (4,619)	-	6	1,227	35 [2]

(2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物 及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び 運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
伊藤ハムデ イリー(株) (注)3	小樽工場 (北海道小樽市)	加工食品事 業本部	ハム・ソー セージ製造 設備	454	321	591 (30,000)	-	4	1,371	57 [86]
伊藤ハムデ イリー(株) (注)3	東北工場 (宮城県栗原市)	加工食品事 業本部	ハム・ソー セージ、調理 加工食品製 造設備	854	978	196 (323,898)	1	27	2,057	251 [272]
伊藤ハムデ イリー(株)	北陸工場 (富山県小矢部 市)	加工食品事 業本部	ハム・ソー セージ製造 設備	197	281	168 (13,386)	-	4	651	58 [56]
伊藤ハムウエ スト(株) (注)3	九州工場 (佐賀県三養基 郡基山町)	加工食品事 業本部	ハム・ソー セージ、調理 加工食品製 造設備	713	1,238	88 (36,359)	50	13	2,104	137 [129]
伊藤ハムデ イリー(株)	仙台営業所 他10営業所	加工食品事 業本部	ハム・ソー セージ、調理 加工食品販 売設備	11	2	- (-)	8	9	32	94 [12]
伊藤ハムウエ スト(株) (注)3	北九州営業所 他26営業所	加工食品事 業本部	ハム・ソー セージ、調理 加工食品販 売設備	271	33	656 (10,114)	82	11	1,054	203 [103]
伊藤ハム販売 (株) (注)3	横浜営業所 他36営業所	加工食品事 業本部	ハム・ソー セージ、調理 加工食品販 売設備	535	39	1,337 (8,666)	32	28	1,973	299 [63]
伊藤ハムミ ート販売西(株) (注)4	西宮営業所 他44営業所	食肉事業本 部	食肉販売設 備	173	62	- (-)	261	49	546	372 [78]
伊藤ハムミ ート販売東(株) (注)4	群馬営業所 他26営業所	食肉事業本 部	食肉販売設 備	95	37	913 (6,842)	183	12	1,243	266 [49]

(3) 在外子会社

主要な設備はありません。

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、無形固定資産であり、建設仮勘定を含んでおります。なお、金額には消費税等を含めておりません。
2. 提出会社の西宮工場には、本社事務所の土地を含めております。
3. 国内子会社の伊藤ハムデイリー(株)小樽工場及び同東北工場の建物及び構築物並びに土地、伊藤ハムウエスト(株)及び伊藤ハム販売(株)の建物及び構築物、機械装置及び運搬具並びに土地は、提出会社より賃借している物件を含みます。
4. 国内子会社の伊藤ハムミート販売西(株)及び伊藤ハムミート販売東(株)の建物及び構築物、機械装置及び運搬具並びに土地は、提出会社より賃借している物件を含みます。
5. 従業員数の [] は、臨時従業員数を外書しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、計画策定に当たってはグループ会議において提出会社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における主な設備の新設、改修等の計画は次のとおりであります。また、経常的な設備の更新のための除却を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月	
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了
伊藤ハムデイリー(株) 小樽工場	北海道 小樽市	加工食品事業本部	生産設備の更新 及び改修工事他	63	-	自己資金 及び 借入金	平成24年 4月	平成25年 3月
伊藤ハムデイリー(株) 東北工場	宮城県 栗原市	加工食品事業本部	"	314	7	"	平成24年 3月	平成25年 3月
当社 東京工場	千葉県 柏市	加工食品事業本部	"	783	0	"	平成24年 3月	平成25年 3月
当社 豊橋工場	愛知県 豊橋市	加工食品事業本部	"	477	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
伊藤ハムデイリー(株) 北陸工場	富山県 小矢部市	加工食品事業本部	"	150	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
当社 西宮工場	兵庫県 西宮市	加工食品事業本部	"	998	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
当社 六甲工場	神戸市 東灘区	加工食品事業本部	"	99	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
伊藤ハムウエスト(株) 九州工場	佐賀県 三養基郡 基山町	加工食品事業本部	"	216	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
当社 神戸工場	神戸市 東灘区	加工食品事業本部	"	112	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
当社他 その他工場	-	加工食品事業本部	"	1,148	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
当社他 各営業所他	-	加工食品事業本部	営業所移転 改修工事他	139	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
当社他 六甲ロジスティクス センター他	-	加工食品事業本部	物流設備の更新 及び改修工事他	287	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
サンキョーミート(株) 有明ミート工場	鹿児島県 志布志市	食肉事業本部	生産設備の更新 及び改修工事他	300	43	"	平成24年 3月	平成25年 3月
I Hミートパッカー(株)他 その他加工センター	-	食肉事業本部	"	532	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
伊藤ハムミート販売西(株)他 各営業所他	-	食肉事業本部	営業所移転 改修工事他	900	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
当社 食肉事業本部	-	食肉事業本部	事務機器設備の 更新他	110	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
当社 間接その他部門	-	全社共通他	"	1,187	-	"	平成24年 4月	平成25年 3月
合計				7,815	50			

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	342,013,000
計	342,013,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	247,482,533	247,482,533	(株)東京証券取引所 (市場第一部) (株)大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	247,482,533	247,482,533	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

第1回新株予約権

平成20年6月26日定時株主総会決議並びに平成20年7月11日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	24(注)1	24(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	24,000(注)2	24,000(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	自平成20年8月1日 至平成50年7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 566 資本組入額 283(注)3	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	同左

(注)1. 新株予約権1個当たりの目的となる株式数は、1,000株とする。

2. 当社が当社普通株式の株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割・併合の比率

また、当社が合併、会社分割、株式交換又は株式移転(以下総称して「合併等」という)を行う場合、株式の無償割当てを行う場合、その他上記の付与株式数の調整を必要とする場合には、合併等、株式の無償割当ての条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で付与株式数を調整することができる。ただし、以上までの調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

3. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項の規定に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じる場合は、これを切り上げるものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

4. 新株予約権の行使の条件

新株予約権者は、当社の取締役及び執行役員(取締役を兼務するものを含まない)のいずれかの地位を喪失した日又は執行役員が取締役に就任した日の翌日以降10日間に限り、新株予約権を行使することができる。

上記に係らず、新株予約権者が平成49年7月31日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合は、平成49年8月1日から平成50年7月31日までの期間内に限り、新株予約権を行使することができる。

新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行することができるものとする。かかる相続人による新株予約権の行使の条件は、下記の契約に定めるところによる。

その他の条件については、取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。

5. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併（合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合において、新株予約権は消滅するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

イ 交付する再編対象会社の新株予約権の数

組織再編行為の効力発生の時点において残存する募集新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

ロ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

ハ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、目的である株式数につき合理的な調整がなされた数とする。ただし、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てる。

ニ 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、調整した再編後の行使価額に新株予約権の目的である株式の数を乗じて得られる金額とする。

ホ 新株予約権を行使することができる期間

上記<新株予約権の行使期間>に定める募集新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記<新株予約権の行使期間>に定める募集新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

ヘ 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

ト 新株予約権の行使の条件

上記4. に準じて決定する。

チ 再編対象会社による新株予約権の取得事由

下記6. に準じて決定する。

6. 新株予約権の取得事由及び条件

当社は、新株予約権者が上記4. の権利行使の条件に該当しなくなった等により権利を行使し得なくなった場合又は権利を放棄した場合、新株予約権を無償で取得することができるものとする。

新株予約権者が新株予約権割当契約の条項に違反した場合、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

第2回新株予約権

平成20年6月26日定時株主総会決議並びに平成21年7月17日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	42(注)1	38(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	42,000(注)2	38,000(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	自平成21年8月4日 至平成51年8月3日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 299 資本組入額 150(注)3	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	同左

(注)1. 新株予約権1個当たりの目的となる株式数は、1,000株とする。

2. 当社が当社普通株式の株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割・併合の比率

また、当社が合併、会社分割、株式交換又は株式移転(以下総称して「合併等」という)を行う場合、株式の無償割当てを行う場合、その他上記の付与株式数の調整を必要とする場合には、合併等、株式の無償割当ての条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で付与株式数を調整することができる。ただし、以上までの調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

3. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項の規定に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じる場合は、これを切り上げるものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

4. 新株予約権の行使の条件

新株予約権者は、当社の取締役及び執行役員(取締役を兼務するものを含まない)のいずれかの地位を喪失した日又は執行役員が取締役に就任した日の翌日以降10日間に限り、新株予約権を行使することができる。

上記に係らず、新株予約権者が平成50年8月3日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合は、平成50年8月4日から平成51年8月3日までの期間内に限り、新株予約権を行使することができる。

新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行することができるものとする。かかる相続人による新株予約権の行使の条件は、下記の契約に定めるところによる。

その他の条件については、取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。

5. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併（合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合において、新株予約権は消滅するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

イ 交付する再編対象会社の新株予約権の数

組織再編行為の効力発生の時点において残存する募集新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

ロ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

ハ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、目的である株式数につき合理的な調整がなされた数とする。ただし、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てる。

ニ 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、調整した再編後の行使価額に新株予約権の目的である株式の数を乗じて得られる金額とする。

ホ 新株予約権を行使することができる期間

上記<新株予約権の行使期間>に定める募集新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記<新株予約権の行使期間>に定める募集新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

ヘ 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

ト 新株予約権の行使の条件

上記4. に準じて決定する。

チ 再編対象会社による新株予約権の取得事由

下記6. に準じて決定する。

6. 新株予約権の取得事由及び条件

当社は、新株予約権者が上記4. の権利行使の条件に該当しなくなった等により権利を行使し得なくなった場合又は権利を放棄した場合、新株予約権を無償で取得することができるものとする。

新株予約権者が新株予約権割当契約の条項に違反した場合、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

第3回新株予約権

平成20年6月26日定時株主総会決議並びに平成22年7月16日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	52(注)1	48(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	52,000(注)2	48,000(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	自平成22年8月3日 至平成52年8月2日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 304 資本組入額 152(注)3	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	同左

(注)1. 新株予約権1個当たりの目的となる株式数は、1,000株とする。

2. 当社が当社普通株式の株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割・併合の比率

また、当社が合併、会社分割、株式交換又は株式移転(以下総称して「合併等」という)を行う場合、株式の無償割当てを行う場合、その他上記の付与株式数の調整を必要とする場合には、合併等、株式の無償割当ての条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で付与株式数を調整することができる。ただし、以上までの調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

3. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項の規定に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じる場合は、これを切り上げるものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

4. 新株予約権の行使の条件

新株予約権者は、当社の取締役及び執行役員(取締役を兼務するものを含まない)のいずれかの地位を喪失した日又は執行役員が取締役に就任した日の翌日以降10日間に限り、新株予約権を行使することができる。

上記に係らず、新株予約権者が平成51年8月2日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合は、平成51年8月3日から平成52年8月2日までの期間内に限り、新株予約権を行使することができる。

新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行行使することができるものとする。かかる相続人による新株予約権の行使の条件は、下記の契約に定めるところによる。

その他の条件については、取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。

5. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併（合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合において、新株予約権は消滅するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

イ 交付する再編対象会社の新株予約権の数

組織再編行為の効力発生の時点において残存する募集新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

ロ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

ハ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、目的である株式数につき合理的な調整がなされた数とする。ただし、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てる。

ニ 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、調整した再編後の行使価額に新株予約権の目的である株式の数を乗じて得られる金額とする。

ホ 新株予約権を行使することができる期間

上記<新株予約権の行使期間>に定める募集新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記<新株予約権の行使期間>に定める募集新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

ヘ 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

ト 新株予約権の行使の条件

上記4. に準じて決定する。

チ 再編対象会社による新株予約権の取得事由

下記6. に準じて決定する。

6. 新株予約権の取得事由及び条件

当社は、新株予約権者が上記4. の権利行使の条件に該当しなくなった等により権利を行使し得なくなった場合又は権利を放棄した場合、新株予約権を無償で取得することができるものとする。

新株予約権者が新株予約権割当契約の条項に違反した場合、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

第4回新株予約権

平成20年6月26日定時株主総会決議並びに平成23年7月15日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	62(注)1	58(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	62,000(注)2	58,000(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	自平成23年8月2日 至平成53年8月1日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 297 資本組入額 149(注)3	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	同左

(注)1. 新株予約権1個当たりの目的となる株式数は、1,000株とする。

2. 当社が当社普通株式の株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割・併合の比率

また、当社が合併、会社分割、株式交換又は株式移転(以下総称して「合併等」という)を行う場合、株式の無償割当てを行う場合、その他上記の付与株式数の調整を必要とする場合には、合併等、株式の無償割当ての条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で付与株式数を調整することができる。ただし、以上までの調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

3. 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項の規定に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じる場合は、これを切り上げるものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

4. 新株予約権の行使の条件

新株予約権者は、当社の取締役及び執行役員(取締役を兼務するものを含まない)のいずれかの地位を喪失した日又は執行役員が取締役に就任した日の翌日以降10日間に限り、新株予約権を行使することができる。

上記に係らず、新株予約権者が平成52年8月1日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合は、平成52年8月2日から平成53年8月1日までの期間内に限り、新株予約権を行使することができる。

新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行行使することができるものとする。かかる相続人による新株予約権の行使の条件は、下記の契約に定めるところによる。

その他の条件については、取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。

5. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併（合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合において、新株予約権は消滅するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

イ 交付する再編対象会社の新株予約権の数

組織再編行為の効力発生の時点において残存する募集新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

ロ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

ハ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、目的である株式数につき合理的な調整がなされた数とする。ただし、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てる。

ニ 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、調整した再編後の行使価額に新株予約権の目的である株式の数を乗じて得られる金額とする。

ホ 新株予約権を行使することができる期間

上記<新株予約権の行使期間>に定める募集新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記<新株予約権の行使期間>に定める募集新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

ヘ 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

ト 新株予約権の行使の条件

上記4. に準じて決定する。

チ 再編対象会社による新株予約権の取得事由

下記6. に準じて決定する。

6. 新株予約権の取得事由及び条件

当社は、新株予約権者が上記4. の権利行使の条件に該当しなくなった等により権利を行使し得なくなった場合又は権利を放棄した場合、新株予約権を無償で取得することができるものとする。

新株予約権者が新株予約権割当契約の条項に違反した場合、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年4月1日～ 平成21年3月31日 (注)	37,000,000	247,482,533	6,012	28,427	6,012	30,033

(注) 有償第三者割当 割当先 三菱商事(株)
37,000,000株
発行価格 325円
資本組入額 162円50銭

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	45	25	242	113	8	37,082	37,515	-
所有株式数 (単元)	-	63,598	629	95,879	15,862	11	70,984	246,963	519,533
所有株式数の 割合(%)	-	25.75	0.25	38.82	6.42	0.00	28.74	100.00	-

(注) 自己株式14,738,878株は、「個人その他」に14,738単元及び「単元未満株式の状況」に878株含めて記載して
おります。なお、自己株式14,738,878株は株主名簿記載上の株式数であり、平成24年3月31日現在の実保有残高は
14,737,878株であります。

(7)【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3-1	49,656	20.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	14,806	5.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11-3	14,370	5.81
財団法人伊藤記念財団	東京都目黒区三田1丁目6-21	12,000	4.85
エス企画株式会社	兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22-13	9,188	3.71
丸紅株式会社	東京都千代田区大手町1丁目4-2	7,099	2.87
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3-3	6,303	2.55
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	6,303	2.55
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	6,303	2.55
財団法人伊藤文化財団	兵庫県西宮市高畑町4-27	6,200	2.51
計	-	132,230	53.43

(注) 1. 上記のほか、自己株式が14,737千株あります。

2. 上記、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社、日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式数全ては、信託業務に係るものであります。

3. 上記、財団法人伊藤記念財団は、故創業者伊藤傳三が、その私財を寄付することにより食肉に関する研究及び調査を行い、畜産業及び食品産業の振興と国民食生活の安定に資することを目的として設立された公益法人であります。

4. 上記、株式会社みずほコーポレート銀行の所有株式数のうち退職給付信託に係る株式が1,260千株含まれております。

5. 上記、財団法人伊藤文化財団は、故創業者伊藤傳三が、その私財を寄付することにより兵庫県民の芸術文化に関する知識及び教養の普及向上に寄与することを目的として設立された公益法人であります。

6. 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ及び共同保有者である株式会社三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行株式会社、三菱UFJ投信株式会社、エム・ユー投資顧問株式会社より平成23年10月3日付で提出された大量保有報告書の変更報告書 4により平成23年9月26日現在でそれぞれ以下のとおり株式等を保有している旨の報告を受けておりますが、このうち三菱UFJ信託銀行株式会社、三菱UFJ投信株式会社、エム・ユー投資顧問株式会社につきましては、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	株券保有割合 (%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	6,303,000	2.55
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-5	12,720,000	5.14
三菱UFJ投信株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-5	1,546,000	0.62
エム・ユー投資顧問株式会社	東京都中央区日本橋室町3丁目2-15	699,000	0.28
計	-	21,268,000	8.59

7. 株式会社みずほコーポレート銀行及び共同保有者であるみずほ信託銀行株式会社より平成24年3月7日付で提出された大量保有報告書の変更報告書 4により平成24年2月29日現在でそれぞれ以下のとおり株券等を保有している旨の報告を受けておりますが、このうちみずほ信託銀行株式会社につきましては、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3-3	6,303,750	2.55
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1丁目2-1	5,056,000	2.04
計	-	11,359,750	4.59

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 14,738,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 232,225,000	232,225	-
単元未満株式	普通株式 519,533	-	1単元(1,000株) 未満の株式
発行済株式総数	247,482,533	-	-
総株主の議決権	-	232,225	-

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
伊藤ハム株式会社	神戸市灘区備後町3丁目 2-1	14,737,000	-	14,737,000	5.95
アンズコフーズ株式会社	東京都港区西新橋3丁目 16-11	1,000	-	1,000	0.00
計	-	14,738,000	-	14,738,000	5.96

(注) 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権の数1個)あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式の中に含めております。

(9) 【ストック・オプション制度の内容】

当社は、新株予約権方式によるストック・オプション制度を採用しております。

当該制度は、取締役及び執行役員に対する報酬制度に関して、退職慰労金制度を廃止し、取締役及び執行役員に対して株式報酬型ストック・オプション制度を導入することを平成20年6月26日の定時株主総会において決議されたものであります。

当該制度の内容は、以下のとおりであります。

(平成20年6月26日定時株主総会決議並びに平成20年7月11日取締役会決議)

決議年月日	平成20年6月26日並びに平成20年7月11日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 9名、当社執行役員 12名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(平成20年6月26日定時株主総会決議並びに平成21年7月17日取締役会決議)

決議年月日	平成20年6月26日並びに平成21年7月17日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 9名、当社執行役員 11名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(平成20年6月26日定時株主総会決議並びに平成22年7月16日取締役会決議)

決議年月日	平成20年6月26日並びに平成22年7月16日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 9名、当社執行役員 8名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(平成20年6月26日定時株主総会決議並びに平成23年7月15日取締役会決議)

決議年月日	平成20年6月26日並びに平成23年7月15日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 6名、当社執行役員 6名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成23年11月10日)での決議状況 (取得期間 平成23年11月11日~平成24年3月31日)	10,000,000	3,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	8,320,000	2,563,670,965
残存決議株式の総数及び価額の総額	1,680,000	436,329,035
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	16.8	14.5
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	16.8	14.5

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成24年5月11日)での決議状況 (取得期間 平成24年5月14日~平成24年8月15日)	5,000,000	1,600,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	-	-
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	1,421,000	441,450,996
提出日現在の未行使割合(%)	71.6	72.4

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	2,244	686,177
当期間における取得自己株式	24	7,434

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(注)1	107,000	34,990,313	12,000	3,796,218
保有自己株式数(注)2	14,737,878	-	16,146,902	-

(注)1. 当事業年度の内訳は、新株予約権の権利行使(株式数 107,000株、処分価額の総額 34,990,313円)であります。また、当期間の内訳は、新株予約権の権利行使(株式数 12,000株、処分価額の総額 3,796,218円)であります。

当期間の株式数ならびに処分価額の総額には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までに処分されたものは含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。また、新株予約権の権利行使により処分された株式は除かれておりません。

3【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置付けており、配当につきましては、収益の状況及び将来の事業展開等を勘案して安定的な配当の継続を基本方針としております。

当社は中間配当は採用しておらず、期末配当の年1回の剰余金の配当を基本としております。この剰余金の配当の決定機関は取締役会であります。

当事業年度の期末配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり3円の配当を実施することを決定いたしました。

内部留保資金につきましては、長期的展望に立ち持続的な成長を実現するために有効投資し、業績の安定と収益の向上に努めてまいります。

当社は、「会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる。」旨定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年5月11日 取締役会決議	698	3

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	590	619	389	356	345
最低(円)	404	228	284	251	265

(注) 最高・最低株価は株東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	293	305	318	322	327	327
最低(円)	265	268	297	301	302	312

(注) 最高・最低株価は株東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		堀尾 守	昭和23年3月5日生	昭和46年4月 三菱商事(株)入社 平成10年8月 同 飼料畜産部長 平成14年4月 同 執行役員生活産業グループ CEO補佐 平成15年4月 同 執行役員食糧本部長 平成17年6月 日本農産工業(株) 代表取締役社長 平成21年6月 当社代表取締役副社長就任 平成21年10月 同 加工食品事業本部・本部長 平成22年4月 同 代表取締役社長就任(現任)	(注)6	70
取締役 常務執行役員	管理本部長	石井 隆	昭和26年7月17日生	昭和49年4月 当社入社 平成11年10月 経本部長経理部・部長 平成15年12月 シェアードサービス部・部長 平成16年6月 執行役員就任 平成17年3月 経営企画デパートメント・マネー ジャー 平成21年3月 経営企画統括部・部長 平成21年6月 取締役就任 平成22年4月 取締役執行役員就任 経営戦略部・部長 平成23年4月 取締役常務執行役員就任(現任) 管理本部・本部長(現任)	(注)6	15
取締役 常務執行役員	加工食品事業 本部長	池内 博昭	昭和27年10月11日生	昭和51年4月 当社入社 平成3年6月 東京事業本部営業部関東第二販売 部・部長 平成11年3月 東京事業本部広域第一営業事業部 ・事業部長代理 平成14年9月 営業事業本部広域第一営業事業部 ・事業部長 平成18年7月 執行役員就任 平成21年3月 加工食品事業本部営業本部・本部長 平成21年6月 取締役執行役員就任 平成23年4月 取締役常務執行役員就任(現任) 加工食品事業本部・本部長(現 任) 加工食品事業本部事業戦略統括部 ・部長(現任)	(注)6	10
取締役 執行役員	食肉事業本部 長	菊地 清貴	昭和41年11月19日生	平成元年4月 三菱商事(株)入社 平成8年4月 米国INDIANA PACKERS CORP.出向 平成11年5月 三菱商事(株) 飼料畜産部 平成19年4月 同 食肉事業ユニットマネージャー 平成20年4月 同 飼料畜産ユニット 畜産チー ムリーダー 平成21年4月 当社執行役員就任 同 食肉事業本部・副事業本部長 平成21年6月 同 取締役執行役員就任(現任) 平成22年4月 同 食肉事業本部・本部長(現任)	(注)6	5

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 執行役員	加工食品事業本 部営業本部長	辻川 禮孝	昭和27年7月31日生	昭和51年4月 当社入社 平成6年2月 営業本部NC部・部長 平成11年3月 東京事業本部広域第一営業事業部 ・事業部長代理 平成17年3月 伊藤ハムデイリー(株)取締役就任 同 東北セールスユニット・ゼネ ラルマネージャー 平成18年6月 同 常務取締役就任 平成19年5月 同 専務取締役就任 平成21年5月 同 代表取締役社長就任 平成22年4月 当社執行役員就任 同 加工食品事業本部事業戦略統 括部・部長 平成22年6月 同 取締役執行役員就任(現任) 平成23年4月 同 加工食品事業本部営業本部・ 本部長(現任)	(注)6	15
取締役 執行役員	加工食品事業 本部生産本部長	柴山 育明	昭和31年1月20日生	昭和53年4月 伊藤ハムデイリー(株)入社 平成10年3月 同 東北事業部東北工場製造二部 ・部長 平成14年3月 同 東北工場製造部・部長 平成16年3月 当社生産ディビジョン船橋工場・ 工場長 平成21年3月 同 加工食品事業本部生産本部技 術部・部長 平成22年4月 同 執行役員就任 加工食品事業本部生産本部・ 本部長(現任) 購買部・中央研究所担当(現 任) I H P S 担当 平成22年6月 同 取締役執行役員就任(現任)	(注)6	10
取締役 執行役員	食肉事業本部 副事業本部長	伊藤 功一	昭和50年3月16日生	平成9年4月 当社入社 平成18年7月 執行役員就任 平成19年3月 食肉事業本部海外食肉事業部・副 事業部長 平成21年3月 食肉事業本部・副事業本部長(現 任) 平成21年5月 食肉事業本部海外食肉事業部・部 長 平成22年4月 食肉事業本部海外食肉本部・本部長 平成22年6月 取締役執行役員就任(現任)	(注)6	2,603
取締役		棟方 信彦	昭和23年11月10日生	昭和47年4月 (株)電通入社 平成8年2月 同 東京本社マーケティング統括 局 部長 平成12年7月 学校法人恵泉女学園 監事 平成13年10月 (株)電通 東京本社第3 A P 本部第 5 営業局営業部長 平成17年4月 同 東京本社 A P 統括本部第5マ ーケティング・プランニング 室部長 平成17年9月 同 退社 平成18年4月 公立大学法人熊本県立大学総合管 理学部 助教授 平成21年4月 同 教授 平成23年6月 当社取締役就任(現任) 平成24年4月 学校法人松山東雲学園 理事(現 任)	(注)6	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		岩本 信剛	昭和24年 9月14日生	昭和47年 3月 当社入社 平成12年 4月 執行役員就任 平成16年 6月 取締役兼執行役員就任 平成20年 6月 取締役就任 平成21年 3月 加工食品事業本部生産本部・本部長 加工食品事業本部海外統括部担当 平成21年 6月 取締役兼執行役員就任 平成22年 6月 常勤監査役就任(現任)	(注) 3	18
常勤監査役		田村 和彦	昭和27年 1月26日生	昭和49年 4月 当社入社 平成11年10月 財務部・部長 平成20年 4月 執行役員就任 平成23年 4月 顧問就任 平成23年 6月 常勤監査役就任(現任)	(注) 4	20
監査役		今村 昭文	昭和28年 4月18日生	昭和57年 4月 弁護士登録 平井法律事務所入所 平成元年 4月 あたご法律事務所 パートナー弁護士 平成15年 5月 グリーンヒル法律特許事務所 パートナー弁護士(現任) 平成23年 6月 当社監査役就任(現任)	(注) 4	-
監査役		中山 繁太郎	昭和25年3月25日生	平成19年 7月 大阪国税局課税第二部 次長 平成20年 7月 札幌国税不服審判所長 平成21年 7月 同所退職 平成21年 9月 税理士開業(現任) 平成24年 6月 当社監査役就任(現任)	(注) 5	-
				計		2,761

(注) 1. 棟方信彦は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

2. 今村昭文並びに中山繁太郎は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

3. 平成22年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

4. 平成23年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

5. 平成24年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6. 平成24年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

7. 当社は、取締役会の強化を図るとともに、業務執行における意思決定のスピードアップを図るために執行役員制度を導入しております。

取締役を兼務していない執行役員は、次のとおりであります。

役名	氏名	担当
執行役員	藤原 芳士	管理本部財務部・部長
執行役員	中島 壽徳	管理本部人事総務部・部長
執行役員	市田 健一	経営戦略部・部長、CSR本部・本部長
執行役員	岩下 康之	加工食品事業本部生産本部西宮工場・工場長
執行役員	福山 宏務	伊藤ハムウエスト㈱社長
執行役員	平岡 昌樹	加工食品事業本部営業本部・副本部長、業務用事業部長

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及びその施策の実施状況

「コーポレート・ガバナンスを確実に実現し、透明性の高い経営」を目指す当社は、企業としての社会的責任（CSR）を十分に果たすために、また、すべてのステークホルダーから信頼を得るためにも、監督・監視など内部統制機能を充実させた経営組織体制を整備し、的確な経営の意思決定とスピーディな業務執行を行ってまいりました。また、今後もコンプライアンス意識を向上させる研修・教育の徹底と、積極的な情報開示を通して経営の透明性を高め、総合的なコーポレート・ガバナンスの充実に努めてまいります。

イ．取締役会

取締役は8名で、内1名が社外取締役であります。取締役会は月1回の定例取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を適時に開催しております。取締役会では経営上の重要な事項に関する意思決定や方針決定及び業務執行状況の監督を行っております。

ロ．執行役員会議

執行役員は取締役兼務者6名を含めて12名であります。執行役員会議は月1回の定例会議のほか、必要に応じて臨時会議を適時に開催しております。執行役員会議では業務執行報告と重要事項の検討を行っております。

ハ．監査役及び監査役会

当社の監査役は4名で、内2名が社外監査役、2名が常勤の監査役であります。監査役は取締役会や社内の重要会議に出席するほか、取締役及び執行役員等から業務執行について直接聴取を実施するなど、十分な監査を行っております。また、会計監査人からも監査計画及び結果について、適宜報告を受け、意見交換をするなど緊密な連携のもと監査を進めております。

なお、常勤監査役田村和彦は、長年当社の財務経理業務を担当しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。また、監査役今村昭文は弁護士の資格を、監査役中山繁太郎は税理士の資格を有しております。

ニ．責任限定契約の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該社外取締役または社外監査役が任務を怠ったことによって損害賠償責任を負う場合は、会社法第425条第1項の最低責任限度額を限度としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

ホ．内部監査部門

当社はCSR本部の中に監査室、品質保証部を設置しております。監査室は監査計画に基づき、グループ会社も含めた幅広い内部監査を実施しておりますが、必要に応じて計画外の臨時内部監査を行います。また、監査役と監査計画の概要を協議し、内部統制システムの評価とその監査結果の報告を行っております。一方、品質保証部は関連法令遵守やグループ会社も含めた品質管理、衛生管理、環境管理体制の監視及び指導を実施しております。

へ. 社外取締役と社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役の棟方信彦は、長く㈱電通に勤務された後、熊本県立大学総合管理学部教授を歴任、現在は学校法人松山東雲学園の理事であります。専門分野はマーケティング戦略及びブランド・コミュニケーション戦略であり、その高い見識に裏づけられた発言により、重要な業務執行の意思決定並びに業務執行の監督という取締役会の機能・役割を健全に維持することになると考えております。なお、当社と同氏の間には、人的関係、資本的關係及び取引関係その他の特別な利害関係はありません。また、同氏が㈱電通を退社されてから相当期間が経過していること、熊本県立大学、学校法人東雲学園との間にも人的関係、資本的關係及び取引関係その他の特別な利害関係はないことから、独立性を有するものと考え、社外取締役として選任しております。

社外監査役の今村昭文は、弁護士としての専門的な知識と豊富な知見を有していることから、社外監査役としての監査機能及び役割を果たしていただけると考えております。なお、当社と同氏の間には、人的関係、資本的關係及び重要な取引関係その他の特別な利害関係はありません。また、同氏は現在、J B C Cホールディングス㈱の社外監査役を兼任しておりますが、当社と当該会社及びその関係会社との間に人的関係、資本的關係及び取引関係その他の特別な利害関係はありません。以上のことから、独立性を有するものと考え、社外監査役として選任しております。

社外監査役の中山繁太郎は、税理士としての専門的な知識と豊富な知見を有していることから、社外監査役としての監査機能及び役割を果たしていただけると考えております。なお、当社と同氏の間には、人的関係、資本的關係及び取引関係その他の特別な利害関係はありません。以上のことから、独立性を有するものと考え、社外監査役として選任しております。

当社は、経営の監視・監督機能を強化するため、社外取締役及び社外監査役を選任しております。社外取締役は、会社の最高権限者である代表取締役などと直接の利害関係のない有識者や経営者等から選任し、当社の業務執行に携わらない客観的な立場からの経営判断を受けることで、取締役会の監督機能強化を図っております。社外監査役は、監査体制の独立性を高め、客観的な立場から監査意見を表明することで、当社の企業統治の有効性に大きく寄与しているものと考えております。

当社において、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監督又は監査といった機能及び役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として、選任しております。

ト. 会計監査

当社は有限責任あずさ監査法人との間で、会社法監査と金融商品取引法監査について監査契約を締結しており、公正かつ適切な監査が実施されております。

業務を執行した公認会計士

公認会計士の氏名等	所属する監査法人	継続監査年数
指定有限責任社員 業務執行社員 近藤 康仁	有限責任 あずさ監査法人	3年
指定有限責任社員 業務執行社員 牧 美喜男		6年
指定有限責任社員 業務執行社員 高橋 和人		2年

会計監査業務に係る補助者の構成 公認会計士 10名 その他 12名

チ．コンプライアンス体制

当社はCSR本部のコンプライアンス推進室が中核となって、当社グループの役員をはじめ全従業員のコンプライアンスに対するさらなる意識向上、並びに実践の企業風土を徹底浸透させるとともに、コンプライアンス体制の強化・拡充を図っており、ホームページにて、その活動内容を開示しております。社外有識者を委員長とするCSR委員会は、第三者の目で当社のCSR体制をチェックし、その結果を取締役に提言しております。また、コンプライアンス責任者会議は各部門の責任者により構成され、各部門でのコンプライアンスに関する課題・問題を共有しながら、グループ会社も含め水平展開を図っております。コンプライアンス委員は担当職域で職場責任者と協力し、現業部門でのコンプライアンス推進及び定着を図っております。また、「企業倫理規範」を策定し、それをコンプライアンス・ハンドブックとして従業員全員に配布し、法令遵守の教育を推進しております。更に、社内ではコンプライアンス相談窓口や人事ホットメール、社外では弁護士による「なんでも弁護士相談室」を設置するなど、社内通報システムの強化を図っております。

リ．情報開示

株主及び投資家の皆様への積極的な情報開示を通して、経営全般に対する透明性を高めることを基本的な考え方としております。そのため、会社の活動内容や業績に関わるニュースリリース、説明会の開催及びホームページでの掲載等の広報・IR活動を実施し、適時適正な情報開示を推進してまいります。

ヌ．内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

1．取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (1) 取締役は、コンプライアンス体制を確立するとともに、企業理念及びコンプライアンス推進規程を定め、CSR本部長を中心に社外の学識経験者を委員長とするCSR委員会や代表取締役社長を議長とするコンプライアンス責任者会議を軸に、内部統制システムの構築・維持・向上を推進するものいたします。
- (2) 取締役は、各取締役間での相互牽制機能の強化を図るとともに、取締役の職務の執行の適法性を監督する体制を構築するものいたします。
- (3) 取締役は、当社において、法令及び定款の違反についての疑義を発見した場合には、直ちにCSR本部長を通じ危機管理委員長の判断で、取締役会に報告するものいたします。

2．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報については、文書取扱に関する定めに基づき、その保存媒体に応じて、適切かつ確実に保存・管理することとし、必要に応じて10年間は検索可能な状態を維持するものいたします。

3．損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 当社は、当社の業務執行に係るリスクとして以下a～dのリスクを認識し、その把握と管理、個々のリスクについての管理責任者などのリスク管理体制を整えるものいたします。
 - a) 市況又は為替に関するリスク
 - b) 事業の投資又は事業の継続に関するリスク
 - c) 災害・疫病等の発生するリスク
 - d) 品質の安全性に関するリスク
- (2) リスク管理体制の基礎として、危機管理規程を定め、個々のリスクについての管理責任者を決定し、同規程に従ったリスク管理体制を構築するものいたします。
重大な危機が発生した場合には、社長を委員長とする危機管理委員会を設置し、必要に応じて情報連絡チームや顧問弁護士を含む外部アドバイザーチームを組織し、迅速な対応を行い、損害の拡大を防止し、これを最小限に止める体制を整えるものいたします。

4．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜、臨時に開催するものとし、当社の経営方針及び経営戦略に関わる重要事項については、その審議を経て執行決定を行うものいたします。
- (2) 取締役会の決定に基づく業務執行については、職務分掌に基づき、それぞれの責任者及びその責任、執行手続の詳細について定めるものいたします。

5. 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合する事を確保するための体制
 - (1) コンプライアンス体制を確立し、CSR本部長を中心に社外の学識経験者を委員長とするCSR委員会や代表取締役社長を議長とするコンプライアンス責任者会議を軸に、内部統制システムの構築・維持・向上を推進するものいたします。
 - (2) 執行部門から独立したCSR本部を設置し、その下部組織として監査室等の監査部門を設置し、コンプライアンス体制の整備及び維持を図るものいたします。なお、必要に応じて、各担当部署にて、規程やガイドラインの策定、研修の実施を行うものいたします。
 - (3) 法令及び定款違反についての社内報告体制として、社外の弁護士、第三者機関等を直接の情報受領者とする社内通報システムを整備し、社内通報規程に基づきその運用を行うこといたします。
 - (4) 監査役は、当社の法令遵守体制及び社内通報システムの運用に問題があると認められるときは、意見を述べるとともに、改善策の策定を求めることができるものいたします。
6. 当該株式会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - (1) グループ会社における業務の適正を確保するため、グループ会社全てに適用する企業理念を定め、これを基礎として行動規範とグループ各社で諸規程を定めるものいたします。
 - (2) 経営管理につきましては、グループ経営ビジョンを策定し開示するとともに、子会社管理に関する定めに従い、当社への決裁・報告制度による子会社経営の管理を行うものとし、必要に応じてモニタリングを行うものいたします。
 - (3) 取締役は、グループ会社において、法令及び定款の違反についての疑義を発見した場合には、直ちにCSR本部長を通じ危機管理委員長の判断で、取締役会に報告するものいたします。
7. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項
 - (1) 監査役が、その職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合、当社の使用人から監査役の指揮命令を受ける監査役補助者を任命するものいたします。
 - (2) 監査役補助者の人事については、監査役会の同意を得た上で取締役会が決定するものいたします。
8. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する事項並びにその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
 - (1) 取締役は、監査役に報告すべき事項を監査役会と協議して定めることとし、当社の業務に影響を与える重要な事項については、使用人も含めて、監査役に遅滞なく報告するものいたします。
 - (2) 監査役会は、代表取締役、監査法人と定期的に意見交換を開催することにしており、また必要に応じて専門の弁護士に助言を受けるものいたします。
9. 財務報告の信頼性を確保するための体制
 - (1) 当社は、財務報告の信頼性を確保するための体制を構築し、適切な運用を実施するため、財務会計に係る諸規程を整備し、財務報告に係る内部統制の充実を図るものいたします。
 - (2) 取締役、監査役、監査部門、各部門は、連携して財務報告に係る内部統制の整備・運用状況を継続的に評価し、是正・改善の必要があるときには、その対策を講ずるものいたします。
10. 反社会的勢力の排除に向けた体制
 - (1) 当社及びグループ会社は社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力による不当な要求に対して断固これを排除し、これらの勢力とは一切関係を持たないことを基本方針といたします。
 - (2) 反社会的勢力への対応統括部門は人事総務部があたり、警察の組織犯罪対策部局、各都道府県における企業防衛対策協議会及び暴力団追放推進センター等と連携して、反社会的勢力に関する動向を把握し、情報交換を行うとともに社内への啓蒙活動を行うものいたします。
 - (3) 反社会的勢力への対応マニュアルを整備し社内周知を図るとともに、不当要求等が発生した場合、対応マニュアルに基づき外部機関と連携し、会社と関係者の安全を確保するなど必要に応じた体制を構築するものいたします。

役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	利益連動給与	ストック オプション	賞与	
取締役 (社外取締役を除く。)	179	168	-	11	-	10
監査役 (社外監査役を除く。)	33	33	-	-	-	3
社外役員	19	19	-	-	-	4

ロ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役の報酬は基本報酬と年1回の利益連動給与及びストック・オプションで構成しており、社外取締役を含む報酬委員会の審議を経て、取締役会において、その決定方針を定めております。

具体的には基本報酬は、役位別の一定の基準をベースとして、利益連動給与は以下の算定方法により株主総会で決議された総額の範囲内において決定しております。

また、ストック・オプションは、役位別に付与株式数を1,000株単位で定め、付与しております。

監査役については、監査役の協議にて決定しており、高い独立性の確保の観点から、業績との連動は行わず、月額報酬のみを支給することとしております。

(利益連動給与の算定方法)

計算式：連結経常利益×0.01%×利益乗率×役位別乗率

[利益乗率]

連結経常利益	乗率
130億円以上	1.40
100億円以上	1.35
60億円以上	1.25
30億円以上	1.00
30億円未満	0.00

[役位別乗率]

役位	乗率
会長	8.0
社長	8.0
副社長	7.2
専務執行役員	5.6
常務執行役員	4.8
執行役員	4.0

留意事項

- ・支給対象となる役員は、法人税法第34条第1項第3号に記載される業務執行役員である取締役です。なお、社外取締役、監査役及び会計参与は含みません。
- ・法人税法第34条第1項第3号イに規定する「当該事業年度の利益に関する指標」は有価証券報告書を基礎とした連結経常利益とします。なお、連結経常利益が150億円以上の場合は、150億円として利益連動給与を算定します。
- ・支給する利益連動給与の支給限度に係る法人税法第34条第1項第3号イ(1)に規定する「確定額」は、1億円を限度とします。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

127銘柄 10,665百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
イオン(株)	2,482,316	2,392	取引関係の維持・発展
(株)セブン&アイ・ホールディングス	688,182	1,460	同上
丸紅(株)	1,024,827	613	同上
エスフーズ(株)	838,888	586	同上
J．フロントリテイリング(株)	1,123,360	388	同上
東京海上ホールディングス(株)	138,160	307	同上
(株)いなげや	309,804	272	同上
(株)伊予銀行	345,120	239	同上
(株)吉野家ホールディングス	2,279	227	同上
(株)マルエツ	530,827	161	同上
(株)上組	220,000	156	同上
N K S Jホールディングス(株)	210,000	114	同上
イズミヤ(株)	282,000	104	同上
エイチ・ツー・オーリテイリング(株)	165,001	92	同上
不二製油(株)	82,500	89	同上
(株)関西スーパーマーケット	100,612	81	同上
ユニー(株)	99,977	77	同上
太陽化学(株)	121,605	75	同上
(株)ライフコーポレーション	57,893	72	同上
(株)フジ	40,659	66	同上
ミニストップ(株)	48,315	65	同上
(株)パロー	79,200	65	同上
日本マクドナルドホールディングス(株)	32,490	65	同上
(株)ニチレイ	177,998	63	同上
(株)オーエムツーネットワーク	146,086	61	同上
(株)カスミ	135,049	60	同上
原信ナルスホールディングス(株)	45,679	59	同上

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,536,840	590	退職給付信託に拠出して おり、議決権行使の 指図権限を有して おります。
(株)三井住友フィナンシャルグループ	155,800	402	同上
(株)みずほフィナンシャルグループ	2,560,000	353	同上

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

当事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
イオン(株)	2,483,215	2,701	取引関係の維持・発展
(株)セブン&アイ・ホールディングス	688,182	1,691	同上
丸紅(株)	1,024,827	611	同上
エスフーズ(株)	838,888	562	同上
J・フロントリテイリング(株)	1,123,360	518	同上
東京海上ホールディングス(株)	138,160	313	同上
(株)いなげや	316,280	292	同上
(株)伊予銀行	345,120	252	同上
(株)吉野家ホールディングス	2,293	245	同上
(株)オークワ	177,763	209	同上
(株)マルエツ	530,827	165	同上
(株)上組	220,000	150	同上
イズミヤ(株)	282,000	126	同上
エイチ・ツー・オーリテイリング(株)	165,001	118	同上
(株)パロー	79,200	109	同上
NKSJホールディングス(株)	52,500	97	同上
不二製油(株)	82,500	97	同上
ユニー(株)	99,977	89	同上
(株)カスミ	146,165	81	同上
(株)オーエムツーネットワーク	156,006	80	同上
(株)ライフコーポレーション	58,882	80	同上
日本マクドナルドホールディングス(株)	35,747	78	同上
ミニストップ(株)	48,315	77	同上
(株)フジ	41,385	76	同上
(株)関西スーパーマーケット	102,588	75	同上
太陽化学(株)	121,605	74	同上
(株)高島屋	100,000	68	同上

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,536,840	633	退職給付信託に拠出しており、議決権行使の指図権限を有していません。
(株)三井住友フィナンシャルグループ	155,800	424	同上
(株)みずほフィナンシャルグループ	2,560,000	345	同上

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

八．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額
該当事項はありません。

二．投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額
該当事項はありません。

ホ．投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額
該当事項はありません。

取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、累積投票によらない旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

自己の株式の取得

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会決議をもって市場取引等により自己の株式を取得できる旨定款に定めております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定めることができる旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、適切な人材確保を容易にするとともに、取締役会及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

(2) 【 監査報酬の内容等】

【 監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	55	-	53	-
連結子会社	4	-	3	3
計	59	-	57	3

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社であるROCKDALE BEEF PTY.LTD.及びITOHAM FOODS(AUSTRALIA)PTY.LTD.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMGに対して、監査証明業務に基づく報酬5百万円、税務関連業務に関する報酬7百万円を支払っております。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社であるROCKDALE BEEF PTY.LTD.及びITOHAM FOODS(AUSTRALIA)PTY.LTD.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMGに対して、監査証明業務に基づく報酬2百万円、税務関連業務に関する報酬1百万円を支払っております。

【 監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【 監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の財務諸表について有限責任あずさ監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての確に対応することができるように公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、適正な連結財務諸表等を作成するための社内規程、マニュアル、指針等の整備を行っております。

1【連結財務諸表等】
(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 35,027	1 9,506
受取手形及び売掛金	43,570	4 48,958
有価証券	-	17,249
商品及び製品	22,671	20,620
仕掛品	393	335
原材料及び貯蔵品	13,848	9,710
繰延税金資産	3,434	2,290
その他	990	2,089
貸倒引当金	159	101
流動資産合計	119,777	110,661
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1 59,354	1 59,059
減価償却累計額	43,006	42,667
建物及び構築物(純額)	1 16,348	1 16,392
機械装置及び運搬具	82,312	81,674
減価償却累計額	69,801	69,778
機械装置及び運搬具(純額)	12,510	11,895
工具、器具及び備品	4,589	4,368
減価償却累計額	3,910	3,711
工具、器具及び備品(純額)	678	656
土地	1 18,426	1 17,828
リース資産	2,104	2,305
減価償却累計額	667	1,067
リース資産(純額)	1,437	1,237
建設仮勘定	484	50
有形固定資産合計	49,885	48,060
無形固定資産		
リース資産	173	182
その他	1,157	1,047
無形固定資産合計	1,330	1,230
投資その他の資産		
投資有価証券	1, 2 20,635	1, 2 24,102
長期貸付金	2,009	2,295
長期前払費用	1,045	789
繰延税金資産	476	1,351
その他	10,220	10,244
貸倒引当金	824	798
投資その他の資産合計	33,563	37,985
固定資産合計	84,779	87,276
資産合計	204,557	197,937

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	42,021	32,408
短期借入金	1 947	1,420
1年内返済予定の長期借入金	1 573	1 634
1年内償還予定の社債	-	10,000
リース債務	473	513
未払金	12,311	10,259
未払法人税等	822	708
未払消費税等	316	763
繰延税金負債	4	5
賞与引当金	2,172	2,600
資産除去債務	4	5
その他	1 2,181	1 1,943
流動負債合計	61,828	61,262
固定負債		
社債	10,000	-
長期借入金	1 10,992	1 16,947
リース債務	1,218	976
繰延税金負債	526	33
退職給付引当金	142	180
債務保証損失引当金	375	270
資産除去債務	759	759
その他	1,983	1,770
固定負債合計	25,999	20,939
負債合計	87,827	82,202
純資産の部		
株主資本		
資本金	28,427	28,427
資本剰余金	30,042	30,047
利益剰余金	59,778	61,116
自己株式	2,133	4,662
株主資本合計	116,115	114,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,862	2,687
繰延ヘッジ損益	44	75
為替換算調整勘定	2,021	2,526
その他の包括利益累計額合計	114	236
新株予約権	82	60
少数株主持分	646	509
純資産合計	116,729	115,735
負債純資産合計	204,557	197,937

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	455,989	447,399
売上原価	1, 3 363,934	1, 3 363,006
売上総利益	92,054	84,393
販売費及び一般管理費	2, 3 89,573	2, 3 81,512
営業利益	2,481	2,880
営業外収益		
受取利息	123	117
受取配当金	242	242
受取賃貸料	545	470
持分法による投資利益	742	496
その他	578	886
営業外収益合計	2,233	2,215
営業外費用		
支払利息	506	295
為替差損	88	114
不動産賃貸費用	233	201
その他	60	82
営業外費用合計	889	694
経常利益	3,825	4,401
特別利益		
固定資産売却益	4 3,614	4 70
投資有価証券売却益	572	158
債務保証損失引当金戻入額	30	104
災害による損失戻入額	-	158
その他	197	50
特別利益合計	4,415	542
特別損失		
固定資産売却損	5 286	5 177
固定資産除却損	6 343	6 364
減損損失	7 3,863	7 743
災害による損失	1,148	-
事業整理損	813	1
特別退職金	3,082	11
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	535	-
事業構造改革費用	-	8 981
その他	54	106
特別損失合計	10,127	2,384
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	1,886	2,559
法人税、住民税及び事業税	1,235	900
法人税等調整額	3,679	440
法人税等合計	2,444	460
少数株主損益調整前当期純利益	557	2,099
少数株主利益	78	39
当期純利益	478	2,060

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	557	2,099
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,116	827
繰延ヘッジ損益	106	31
為替換算調整勘定	185	183
持分法適用会社に対する持分相当額	574	320
その他の包括利益合計	1,612	353
包括利益	1,054	2,453
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,128	2,411
少数株主に係る包括利益	73	41

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	28,427	28,427
当期末残高	28,427	28,427
資本剰余金		
当期首残高	30,038	30,042
当期変動額		
自己株式の処分	3	5
当期変動額合計	3	5
当期末残高	30,042	30,047
利益剰余金		
当期首残高	60,036	59,778
当期変動額		
剰余金の配当	735	722
当期純利益	478	2,060
当期変動額合計	257	1,337
当期末残高	59,778	61,116
自己株式		
当期首残高	805	2,133
当期変動額		
自己株式の取得	1,350	2,564
自己株式の処分	22	34
当期変動額合計	1,327	2,529
当期末残高	2,133	4,662
株主資本合計		
当期首残高	117,696	116,115
当期変動額		
剰余金の配当	735	722
当期純利益	478	2,060
自己株式の取得	1,350	2,564
自己株式の処分	26	40
当期変動額合計	1,580	1,186
当期末残高	116,115	114,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	2,978	1,862
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,115	824
当期変動額合計	1,115	824
当期末残高	1,862	2,687

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	151	44
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	106	31
当期変動額合計	106	31
当期末残高	44	75
為替換算調整勘定		
当期首残高	1,637	2,021
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	384	504
当期変動額合計	384	504
当期末残高	2,021	2,526
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,492	114
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,607	351
当期変動額合計	1,607	351
当期末残高	114	236
新株予約権		
当期首残高	81	82
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	22
当期変動額合計	0	22
当期末残高	82	60
少数株主持分		
当期首残高	586	646
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	60	136
当期変動額合計	60	136
当期末残高	646	509
純資産合計		
当期首残高	119,855	116,729
当期変動額		
剰余金の配当	735	722
当期純利益	478	2,060
自己株式の取得	1,350	2,564
自己株式の処分	26	40
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,545	192
当期変動額合計	3,126	993
当期末残高	116,729	115,735

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	1,886	2,559
減価償却費	6,247	5,968
減損損失	3,863	743
退職給付引当金の増減額(は減少)	159	67
貸倒引当金の増減額(は減少)	191	77
受取利息及び受取配当金	365	360
支払利息	506	295
持分法による投資損益(は益)	742	496
固定資産売却損益(は益)	3,328	106
固定資産除却損	154	264
災害損失	1,107	-
事業整理損失	463	-
特別退職金	3,082	11
事業構造改革費用	-	981
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	535	-
売上債権の増減額(は増加)	691	5,668
たな卸資産の増減額(は増加)	130	6,148
仕入債務の増減額(は減少)	3,173	9,422
未払消費税等の増減額(は減少)	748	453
その他	1,564	612
小計	9,325	2,186
利息及び配当金の受取額	654	818
利息の支払額	522	284
災害損失の支払額	-	94
特別退職金の支払額	-	3,093
事業構造改革費用の支払額	-	981
法人税等の支払額	1,822	983
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,635	2,430

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	120	190
定期預金の払戻による収入	120	215
有形固定資産の取得による支出	6,231	4,777
有形固定資産の売却による収入	6,037	424
無形固定資産の取得による支出	313	200
投資有価証券の取得による支出	97	267
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,100	225
資産除去債務の履行による支出	12	17
連結子会社株式の追加取得による支出	-	40
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	19
関係会社株式の取得による支出	-	3,300
関係会社株式の売却による収入	69	145
貸付けによる支出	1,877	44,010
貸付金の回収による収入	1,413	43,724
その他	207	445
投資活動によるキャッシュ・フロー	118	8,494
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	5,447	472
長期借入れによる収入	5,250	6,750
長期借入金の返済による支出	9,993	732
社債の償還による支出	10	-
自己株式の取得による支出	1,350	2,666
配当金の支払額	735	718
リース債務の返済による支出	405	509
少数株主への配当金の支払額	13	13
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,706	2,582
現金及び現金同等物に係る換算差額	93	78
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	5,283	8,420
現金及び現金同等物の期首残高	39,990	34,706
現金及び現金同等物の期末残高	34,706	26,285

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1．連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 30社

主要な連結子会社の名称

伊藤ハムデイリー(株)

伊藤ハムウエスト(株)

伊藤ハムフードソリューション(株)

伊藤ハム販売(株)

伊藤ハムミート販売東(株)

伊藤ハムミート販売西(株)

子会社はすべて連結されております。当連結会計年度における連結子会社の増加は、新規設立による伊藤ハムウエスト(株)、アイエイチロジスティクスサービス(株)並びに伊藤ハムヒューマンサービス(株)の3社であります。また、減少は、株式売却による(株)サンエー、当社との合併により解散した宝永物産(株)並びに伊藤ハムデイリー(株)との合併により解散した伊藤ハム食品(株)の3社であります。

2．持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社の数 11社

主要な会社等の名称

FIVE STAR BEEF LTD.

関連会社に対する投資については、すべて持分法を適用しております。当連結会計年度における持分法適用の関連会社の増加は、MIY(株)の1社であります。また、減少は、株式売却によるITO HAM NEW ZEALAND LTD. 及び日本畜産振興(株)の2社であります。

3．連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、在外会社6社を除き連結決算日と同一であります。

なお、ITO HAM AMERICA, INC. 他5社の決算日は12月31日であり、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4．会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

(イ) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

(ロ) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

ロ デリバティブ

時価法

八 たな卸資産

(イ) 当社及び国内連結子会社

a) 製品、商品（販売用食肉及び販売用不動産を除く）

先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

b) 販売用食肉

月別移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

c) 販売用不動産

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

d) 原材料（肥育牛を除く）、仕掛品、貯蔵品

月別移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

e) 肥育牛

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(ロ) 在外連結子会社

先入先出法による低価法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を、また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

（ただし、当社及び国内連結子会社は、生物及び平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）は定額法によっております。）

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 15～50年

機械装置及び運搬具 4～10年

ロ 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

八 リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、当社及び国内連結子会社は、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

また、在外連結子会社は相手先毎に回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員賞与の支払に備えるため、当社及び国内連結子会社は、支給見込額に基づき計上しております。

ハ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社及び国内連結子会社は、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年～13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日次連結会計年度から費用処理することとしております。

過去勤務債務は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年～13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生した連結会計年度より費用処理することとしております。

なお、在外連結子会社には退職金制度がありません。

ニ 債務保証損失引当金

債務保証に係る損失に備えるため、被保証会社の財政状態等を勘案し損失負担見込額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は各子会社等の決算日の直物為替相場により、収益及び費用は期中平均為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替予約取引について振当処理の要件を充たしている場合には振当処理を行っております。また、金利スワップ取引について特例処理の要件を充たしている場合には特例処理を行っております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約、金利スワップ

ヘッジ対象...外貨建予定取引、借入金利息

ハ ヘッジ方針

為替予約は為替変動リスクをヘッジするため、金利スワップは金利変動リスクを回避する手段として、実需の範囲内で行うこととし、投機目的の取引は行わない方針であります。

為替予約については、為替リスク管理委員会を設置し、社内管理基準に基づくリスク管理体制をとっており、金利スワップについては、資金担当部門にて一元管理を行っております。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

為替予約取引は原則的に将来の仕入予定に基づくものであり、実行の可能性が極めて高いため、有効性の判定は省略しております。

また、金利スワップ取引は特例処理の要件を充たしているため有効性の判定は省略しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれん及び平成22年3月31日以前に発生した負ののれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

イ 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

【表示方法の変更】

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「固定負債」の「負ののれん」につきましては、明瞭性を高める観点から表示科目の見直しを行い、当連結会計年度より「その他」に含めて表示することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「固定負債」の「負ののれん」に表示しておりました14百万円は、「その他」として組み替えております。

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「負ののれん償却額」につきましては、明瞭性を高める観点から表示科目の見直しを行い、当連結会計年度より「その他」に含めて表示することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「負ののれん償却額」に表示しておりました6百万円は、「その他」として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「特別利益」の「貸倒引当金戻入額」につきましては、明瞭性を高める観点から表示科目の見直しを行い、当連結会計年度より「その他」に含めて表示することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別利益」の「貸倒引当金戻入額」に表示しておりました70百万円は、「その他」として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「特別損失」の「投資有価証券評価損」及び「貸倒引当金繰入額」につきましては、明瞭性を高める観点から表示科目の見直しを行い、当連結会計年度より「その他」に含めて表示することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別損失」の「投資有価証券評価損」及び「貸倒引当金繰入額」に表示しておりました18百万円及び0百万円は、「その他」として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「長期前払費用償却額」及び「投資有価証券評価損益(は益)」につきましては、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「長期前払費用償却額」及び「投資有価証券評価損益(は益)」に表示しておりました68百万円及び18百万円は、「その他」として組み替えております。

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「法人税等の支払額」及び「法人税等の還付額」につきましては、両者を両建て掲記しておりましたが、明瞭性を高める観点から表示科目の見直しを行い、当連結会計年度より、両者を相殺して表示することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「法人税等の還付額」に表示しておりました87百万円は、「法人税等の支払額」として組み替えております。

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「資産除去債務の履行による支出」につきましては、明瞭性を高める観点から表示科目の見直しを行い、当連結会計年度より独立掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示しておりました219百万円は、「資産除去債務の履行による支出」12百万円、その他207百万円として組み替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(退職給付引当金の数理計算上の差異及び過去勤務債務の処理年数の変更)

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生翌連結会計年度から費用処理することとしておりますが、従業員の平均残存勤務期間を見直した結果、当連結会計年度より数理計算上の差異の処理年数を「12年～14年」から「12年～13年」に変更しております。

また、過去勤務債務は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した連結会計年度より費用処理することとしておりますが、従業員の平均残存勤務期間を見直した結果、当連結会計年度より過去勤務債務の処理年数を「12年～14年」から「12年～13年」に変更しております。

この結果、従来の処理年数によった場合に比べ、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ250百万円減少しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
現金及び預金	120百万円	110百万円
建物及び構築物	2,529	2,364
土地	502	502
投資有価証券	249	249
計	3,401	3,227

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	28百万円	- 百万円
1年内返済予定の長期借入金	344	131
長期借入金	319	301
流動負債「その他」(ギフト券発行残高)	64	56

2. 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	10,158百万円	12,827百万円

3. 偶発債務

次のとおり銀行借入等に対し保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(有)環境ファーム	1,364百万円	(有)環境ファーム	1,033百万円
(株)鹿児島農場	1,100	FIVE STAR BEEF LTD.	864
(有)島根農場	670		(NZ \$ 12,850千)
INDIANA PACKERS CORP.	544 (US \$ 6,550千)	(有)島根農場	802
		(株)鹿児島農場	500
FIVE STAR BEEF LTD.	523 (NZ \$ 8,250千)	INDIANA PACKERS CORP.	387
協栄ファーム(有)	300		(US \$ 4,718千)
ITOHAM BETAGRO FOODS CO., LTD.	235 [522] (THB 85,500千)	協栄ファーム(有)	298
		ITOHAM BETAGRO FOODS CO., LTD.	228 [507] (THB 85,500千)
その他 3件	337	その他 2件	208
計	5,074	計	4,323

(注) ITOHAM BETAGRO FOODS CO., LTD. の [] 内の金額は連帯保証債務の総額であり、当社への再保証額が含まれております。

4. 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	35百万円

5. 当社及び連結子会社の一部においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行9行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	21,660百万円	20,560百万円
借入実行残高	200	700
差引額	21,460	19,860

(連結損益計算書関係)

1. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、前連結会計年度の評価損の戻入益と当連結会計年度の評価損を相殺した結果、次のたな卸資産評価損(戻入益)が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	78百万円	63百万円

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
給料及び手当	21,199百万円	18,841百万円
退職給付費用	2,018	2,274
賞与引当金繰入額	1,426	1,696
発送配達費	19,780	20,625
減価償却費	1,474	1,261

3. 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	912百万円	873百万円

4. 固定資産売却益の主なものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
土地	3,613百万円	52百万円

5. 固定資産売却損の主なものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
土地	185百万円	157百万円

6. 固定資産除却損の主な資産別内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
建物及び構築物	47百万円	131百万円
機械装置及び運搬具	66	103
撤去費用他	228	129
計	343	364

7. 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

場所	用途	種類
茨城県つくば市他	遊休資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品、土地
千葉県船橋市	調理加工食品製造工場	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、土地、無形固定資産その他
米国	賃貸資産	建物及び構築物、土地

当社グループは、セグメント（加工食品事業本部、食肉事業本部及びその他）を基本単位としてグルーピングし、賃貸資産及び遊休資産については、個々の資産毎にグルーピングしております。

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり回復が見込まれない事業の資産、使用見込みのない遊休資産及び時価が著しく下落している遊休土地について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を特別損失（3,863百万円）に計上しております。その内訳は、建物及び構築物1,717百万円、機械装置及び運搬具7百万円、土地2,118百万円、工具、器具及び備品0百万円、無形固定資産その他19百万円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地及び建物等については、鑑定評価額に準ずる評価額により評価しております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

場所	用途	種類
千葉県船橋市他	遊休資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、工具、器具及び備品、土地、無形固定資産その他

当社グループは、セグメント（加工食品事業本部、食肉事業本部及びその他）を基本単位としてグルーピングし、賃貸資産及び遊休資産については個々の資産毎にグルーピングしております。

使用見込みのない遊休資産及び時価が著しく下落している遊休土地について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を特別損失（743百万円）に計上しております。その内訳は、建物及び構築物179百万円、機械装置及び運搬具394百万円、工具、器具及び備品3百万円、土地159百万円、無形固定資産その他5百万円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地及び建物等については、鑑定評価額に準ずる評価額により評価しております。

8. 事業構造改革費用

グループ会社再編に伴う、移籍者に対する移籍加算金であります。

なお、前連結会計年度については、該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金:

当期発生額	999百万円
組替調整額	54
税効果調整前	945
税効果額	117
その他有価証券評価差額金	827

繰延ヘッジ損益:

当期発生額	45
組替調整額	-
税効果調整前	45
税効果額	14
繰延ヘッジ損益	31

為替換算調整勘定:

当期発生額	183
組替調整額	-
税効果調整前	183
税効果額	-
為替換算調整勘定	183

持分法適用会社に対する持分相当額:

当期発生額	283
組替調整額	37
税効果調整前	320
税効果額	-
持分法適用会社に対する持分相当額	320

その他の包括利益合計	353
------------	-----

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	247,482	-	-	247,482
合計	247,482	-	-	247,482
自己株式				
普通株式(注)1、2	2,161	4,422	61	6,523
合計	2,161	4,422	61	6,523

(注)1. 普通株式の自己株式の株式数の増加4,422千株は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得4,417千株及び単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少61千株は、ストック・オプションの行使による減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプションと しての新株予約権	-	-	-	-	-	82
	合計	-	-	-	-	-	82

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	735	3	平成22年3月31日	平成22年6月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	722	利益剰余金	3	平成23年3月31日	平成23年6月29日

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（千株）	当連結会計年度 増加株式数（千株）	当連結会計年度 減少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	247,482	-	-	247,482
合計	247,482	-	-	247,482
自己株式				
普通株式（注）1、2	6,523	8,322	107	14,738
合計	6,523	8,322	107	14,738

（注）1. 普通株式の自己株式の株式数の増加8,322千株は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得8,320千株及び単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少107千株は、ストック・オプションの行使による減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （百万円）
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 （親会社）	ストック・オプションと しての新株予約権	-	-	-	-	-	60
合計		-	-	-	-	-	60

3. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	722	3	平成23年3月31日	平成23年6月29日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	698	利益剰余金	3	平成24年3月31日	平成24年6月7日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	35,027百万円	9,506百万円
有価証券勘定	-	17,249
預入期間が3か月を超える定期預金	321	221
償還期限が3か月を超える有価証券	-	249
現金及び現金同等物	34,706	26,285

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主に情報システム関連設備及び運搬具であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.会計処理基準に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位:百万円)

	前連結会計年度(平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	1,499	1,279	220
工具、器具及び備品	836	730	106
その他	334	283	50
合計	2,670	2,292	377

(単位:百万円)

	当連結会計年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	942	854	87
工具、器具及び備品	501	473	27
その他	268	257	10
合計	1,712	1,585	126

(注)取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法により算定しております。

(2)未経過リース料期末残高相当額等

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	254	111
1年超	123	15
合計	377	126

(注)未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
支払リース料	425	247
減価償却費相当額	425	247

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用につきましては短期的な預金等に限定し、資金調達につきましては銀行等金融機関からの借入金及び社債の発行による方針であります。デリバティブは社内管理基準に従い、実需の範囲内で行い、投機目的の取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクにさらされております。当該リスクに関しましては、当社グループの与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。

投資有価証券は、主に株式であり、市場価格のあるものは、価格変動リスクにさらされておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、当該リスクに関しては、毎月時価の把握を行うとともに、取引関連部門へ報告を行い、情報の共有化を図っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。借入金及び社債の用途は運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクにさらされておりますが、このうち一部の長期借入金につきましては、支払利息の変動リスクを回避し、支払利息の固定化を図るために個別契約ごとにデリバティブ取引（金利スワップ取引）をヘッジ手段として実施しております。ヘッジ手段の有効性の評価方法につきましては、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

デリバティブ取引につきましては、社内管理基準に従って行っており、外貨建ての営業債権・債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引といった実需の範囲内で行うこととし、投機目的の取引は行わない方針であります。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定におきましては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等につきましては、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額につきましては、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	35,027	35,027	-
(2) 受取手形及び売掛金	43,570	43,570	-
(3) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	249	253	3
その他有価証券	9,347	9,347	-
資産計	88,196	88,199	3
(1) 支払手形及び買掛金	42,021	42,021	-
(2) 未払金	12,311	12,311	-
(3) 短期借入金	947	947	-
(4) 1年内返済予定の長期借入金	573	575	1
(5) 長期借入金	10,992	10,977	15
(6) 社債	10,000	10,056	56
負債計	76,846	76,889	43
デリバティブ取引 ヘッジ会計が適用されているもの	-	-	-

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価につきましては、市場価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 未払金、(3) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 1年内返済予定の長期借入金、(5) 長期借入金

これらの時価につきましては、返済期限ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等の適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(6) 社債

社債の時価につきましては、その将来キャッシュ・フローを当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式その他	878
関連会社株式	10,158

これらにつきましては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	35,027	-	-	-
受取手形及び売掛金	43,570	-	-	-
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	-	249	-	-
(2) 社債	-	-	-	-
其他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 債券(社債)	-	-	-	-
(2) その他	-	-	-	-
合計	78,598	249	-	-

4. 長期借入金、社債の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	9,506	9,506	-
(2) 受取手形及び売掛金	48,958	48,958	-
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	249	251	1
その他有価証券	27,434	27,434	-
資産計	86,149	86,150	1
(1) 支払手形及び買掛金	32,408	32,408	-
(2) 未払金	10,259	10,259	-
(3) 短期借入金	1,420	1,420	-
(4) 1年内償還予定の社債	10,000	10,024	24
(5) 1年内返済予定の長期借入金	634	635	0
(6) 長期借入金	16,947	17,052	104
負債計	71,668	71,799	130
デリバティブ取引 ヘッジ会計が適用されているもの	-	-	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価につきましては、市場価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 未払金、(3) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 1年内償還予定の社債

社債の時価につきましては、その将来キャッシュ・フローを当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(5) 1年内返済予定の長期借入金、(6) 長期借入金

これらの時価につきましては、返済期限ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等の適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式その他	840
関連会社株式	12,827

これらにつきましては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	9,506	-	-	-
受取手形及び売掛金	48,958	-	-	-
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	249	-	-	-
(2) 社債	-	-	-	-
その他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 債券(社債)	-	-	-	-
(2) その他	17,000	-	-	-
合計	75,715	-	-	-

4. 長期借入金、社債の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上 額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	249	253	3
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	249	253	3
時価が連結貸借対照表計上 額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		249	253	3

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上 額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	249	251	1
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	249	251	1
時価が連結貸借対照表計上 額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		249	251	1

2. その他有価証券

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	8,148	4,634	3,514
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	8,148	4,634	3,514
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,198	1,457	259
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,198	1,457	259
合計		9,347	6,092	3,255

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額748百万円）及びその他（連結貸借対照表計上額130百万円）につきましては市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	9,563	5,224	4,339
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	9,563	5,224	4,339
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	870	1,009	138
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	17,000	17,000	-
	小計	17,870	18,009	138
合計		27,434	23,233	4,201

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額712百万円）及びその他（連結貸借対照表計上額128百万円）につきましては市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	1,095	570	22
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	1,095	570	22

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	224	80	3
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	224	80	3

4. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券で時価評価されていない株式について5百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
 該当事項はありません。
2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成23年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当 処理	為替予約取引 売建	売掛金	1,892	-	19
	円				
	買建	買掛金	8,805	-	87
	米ドル				
	タイバーツ				
ユーロ		1	-	0	
	合計		10,978	-	75

(注) 時価の算定方法
 先物為替相場によっております。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当 処理	為替予約取引 売建	売掛金	1,889	-	28
	円				
	買建	買掛金	4,554	-	127
	米ドル				
	タイバーツ				
ユーロ		9	-	0	
	合計		6,750	-	121

(注) 時価の算定方法
 先物為替相場によっております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(平成23年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特 例処理	金利スワップ 取引 変動受取・ 固定支払	長期借入金	10,000	10,000	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特 例処理	金利スワップ 取引 変動受取・ 固定支払	長期借入金	15,000	15,000	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、確定給付型の制度として、企業年金基金制度、退職一時金制度及び選択性の確定拠出年金制度と前払退職金制度を設けております。また、当社は退職給付信託を設定しております。加えて、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

なお、当社グループの国内連結子会社のうち3社は、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度の日本ハム・ソーセージ工業厚生年金基金に加入しており、当該制度の内容は以下のとおりであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項(平成23年3月31日現在)

年金資産の額	24,230 百万円
年金財政計算上の給付債務の額	41,672 百万円
差引額	17,442 百万円

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

12.89%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高10,786百万円及び繰越不足金6,655百万円であり、本制度における過去勤務債務の償却方法は期間19年の元利均等償却であり、当社グループは、当連結会計年度の連結財務諸表上、特別掛金96百万円を費用処理しております。なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

2. 退職給付債務及びその内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 退職給付債務(百万円)	34,947	32,975
(2) 年金資産(百万円)	32,484	32,263
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(百万円)	2,463	711
(4) 未認識数理計算上の差異(百万円)	10,112	8,054
(5) 未認識過去勤務債務(百万円)	2,529	2,143
(6) 連結貸借対照表計上額純額 (3)+(4)+(5)(百万円)	5,120	5,199
(7) 前払年金費用(百万円)	5,262	5,379
(8) 退職給付引当金(6)-(7)(百万円)	142	180

(注) 1. 臨時に支払う割増退職金は含めておりません。

2. 一部の子会社は退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
(1) 勤務費用(百万円)(注)2, 3	1,811	1,767
(2) 利息費用(百万円)	673	687
(3) 期待運用収益(百万円)	626	649
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	1,344	1,722
(5) 過去勤務債務の費用処理額(百万円)	334	385
(6) 退職給付費用(百万円)	2,867	3,142

- (注) 1. 上記退職給付費用以外に、割増退職金を売上原価及び販売費及び一般管理費として計上しております。当該割増退職金は、前連結会計年度60百万円、当連結会計年度158百万円であります。
2. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「(1) 勤務費用」に計上しております。
3. 確定拠出制度(前払退職金との選択性)の掛金支払額は「(1) 勤務費用」に含めております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (平成24年 3月31日)
(1) 割引率(%)	2.0	2.0
(2) 期待運用収益率(%) (注) 1	2.6	2.6
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	期間定額基準
(4) 数理計算上の差異の処理年数(年) (注) 2	12~14	12~13
(5) 過去勤務債務の処理年数(年) (注) 3	12~14	12~13

- (注) 1. 退職給付信託設定による年金資産については、期待運用収益を見込んでおりません。
2. 各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理することとしております。
3. 発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生した連結会計年度から費用処理することとしております。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
販売費及び一般管理費の株式報酬費用	27	18

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成20年ストック・オプション	平成21年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 9名 当社執行役員 12名	当社取締役 9名 当社執行役員 11名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 114,000株	普通株式 110,000株
付与日	平成20年7月31日	平成21年8月3日
権利確定条件	権利確定条件は付されていません。	権利確定条件は付されていません。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自平成20年8月1日 至平成50年7月31日	自平成21年8月4日 至平成51年8月3日

	平成22年ストック・オプション	平成23年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 9名 当社執行役員 8名	当社取締役 6名 当社執行役員 6名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 90,000株	普通株式 62,000株
付与日	平成22年8月2日	平成23年8月1日
権利確定条件	権利確定条件は付されていません。	権利確定条件は付されていません。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	自平成22年8月3日 至平成52年8月2日	自平成23年8月2日 至平成53年8月1日

(注) スtock・オプションの数を株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成24年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成20年ストック・オプション	平成21年ストック・オプション
権利確定前 (株)		
前連結会計年度末	-	-
付与	-	-
失効	-	-
権利確定	-	-
未確定残	-	-
権利確定後 (株)		
前連結会計年度末	55,000	80,000
権利確定	-	-
権利行使	31,000	38,000
失効	-	-
未行使残	24,000	42,000

	平成22年ストック・オプション	平成23年ストック・オプション
権利確定前 (株)		
前連結会計年度末	-	-
付与	-	62,000
失効	-	-
権利確定	-	62,000
未確定残	-	-
権利確定後 (株)		
前連結会計年度末	90,000	-
権利確定	-	62,000
権利行使	38,000	-
失効	-	-
未行使残	52,000	62,000

単価情報

	平成20年ストック・オプション	平成21年ストック・オプション
権利行使価格 (円)	1	1
行使時平均株価 (円)	319	315
付与日における公正な評価単価 (円)	565	298

	平成22年ストック・オプション	平成23年ストック・オプション
権利行使価格 (円)	1	1
行使時平均株価 (円)	315	-
付与日における公正な評価単価 (円)	303	296

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与された平成23年ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

主な基礎数値及び見積方法

	平成23年ストック・オプション
株価変動性(注)1	31.37%
予想残存期間(注)2	5.952年
予想配当(注)3	3円/株
無リスク利率(注)4	0.486%

(注)1. 平成17年8月18日から平成23年8月1日まで(5.952年)の株価実績に基づき算定しております。

2. 付与時点での付与対象者の退任予定日より算定しております。

3. 平成23年3月期の配当実績によっております。

4. 予想残存期間に対応する国債の利回りであります。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金繰入限度超過額	2,112百万円	1,805百万円
賞与引当金繰入限度超過額	817	992
棚卸資産簿価切下げ否認	56	531
投資有価証券評価損否認	1,514	1,785
固定資産評価損等否認	2,230	2,417
退職給付引当金超過額	1,396	1,554
事業再生費用否認	334	148
債務保証損失引当金否認	182	108
投資損失引当金否認	1,328	238
資産除去債務否認	205	274
繰越欠損金	2,684	5,206
その他	2,140	543
繰延税金資産小計	15,005	15,608
評価性引当金	8,641	9,148
繰延税金資産計	6,364	6,459
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	1,435	1,167
その他有価証券評価差額金	1,398	1,510
その他	149	178
繰延税金負債計	2,983	2,856
繰延税金資産(負債)の純額	3,380	3,603

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	3,476百万円	2,352百万円
固定資産 - 繰延税金資産	2,887	4,106
流動負債 - 繰延税金負債	46	67
固定負債 - 繰延税金負債	2,937	2,788

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	7.6	8.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.8	28.3
住民税均等割等	5.9	5.4
評価性引当金の増減額	77.4	62.2
連結調整による影響額	6.7	37.4
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	16.2
その他	15.5	0.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率	129.5	18.0

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債を控除した金額）が199百万円、法人税等調整額（貸方）が415百万円減少し、その他有価証券評価差額金（貸方）等が216百万円増加しております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

1. 結合当事企業の名称及びその事業の内容、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称及び取引の目的

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

名称 宝永物産株式会社

事業内容 食肉の輸出入及び国内販売

(2) 企業結合日

平成23年6月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

伊藤ハム株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

宝永物産株式会社は食肉の輸出入及び国内販売を主な事業としております。当社グループは新中期経営計画の方針のひとつとしてコスト競争力の強化を掲げ、具体的な施策としてグループ再編を行うこととしており、当該子会社を当社に統合することで、より効率化を図り、競争力の維持・強化を図ることを目的としております。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

営業所等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を1年から38年と見積り、割引率は0.950%から2.354%（期間に応じた利付国債の利率）を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
期首残高(注)	751百万円	764百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	21	41
時の経過による調整額	9	9
資産除去債務の履行による減少額	18	50
期末残高	764	765

(注) 前連結会計年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、商品別の事業本部を置き、各事業本部が、取り扱う製品・サービスについて「生産」「販売」等の各機能を統括するとともに包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業本部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、ハム・ソーセージ及び調理加工食品などの加工品の製造、販売を主たる事業領域とする「加工食品事業本部」と食肉の生産、処理加工及び販売を主たる事業領域とする「食肉事業本部」の2つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場価格等に基づいております。

(報告セグメントの利益又は損失の算定方法の変更)

当社(親会社)の本部及び間接部門に係る費用等の全社費用につきましては、前連結会計年度まで各報告セグメントへの配賦を行っておりませんでした。経営管理の手法を見直した結果、当連結会計年度より各報告セグメントへ配賦する方法に変更しております。この変更に伴う前連結会計年度の組み替え後の数値及び影響額につきましては、「3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報(注)4。」に記載しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額 (注)3
	加工食品 事業本部	食肉 事 業本部	計				
売上高							
外部顧客への売上高	239,502	215,810	455,313	676	455,989	-	455,989
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,477	71,931	75,409	2,373	77,782	77,782	-
計	242,980	287,741	530,722	3,049	533,772	77,782	455,989
セグメント利益	1,277	1,018	2,295	178	2,474	6	2,481
セグメント資産	75,526	49,480	125,007	69	125,076	79,480	204,557
その他の項目							
減価償却費	5,132	981	6,113	2	6,116	0	6,115
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	5,327	1,509	6,837	-	6,837	306	7,144

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣業及び保険代理店業であります。

2. 調整額は、以下の通りであります。

(1) セグメント利益の調整額は、たな卸資産の調整額等であります。

(2) セグメント資産の調整額79,480百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。全社資産の主なものは、現金及び預金35,027百万円、投資その他の資産33,563百万円及び本部及び間接部門の固定資産6,726百万円等であります。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額306百万円は、主に各セグメントに配分していない全社資産の増加額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 平成23年4月1日開始の連結会計年度より、セグメント利益の算定方法を変更したことに伴って、前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)のセグメント利益及びその他の項目の減価償却費を変更後の算定方法による数値に組み替えて表示しております。これにより、従来の算定方法によった場合に比べて、セグメント利益は、加工食品事業本部において4,037百万円、食肉事業本部において1,155百万円それぞれ減少し、その他の項目の減価償却費は、加工食品事業本部において241百万円、食肉事業本部において72百万円それぞれ増加しております。算定方法の変更内容につきましては、「2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法」をご覧ください。

当連結会計年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	加工食品 事業本部	食肉 事 業本部	計				
売上高							
外部顧客への売上高	234,517	212,310	446,827	572	447,399	-	447,399
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,835	66,895	69,731	1,408	71,140	71,140	-
計	237,353	279,205	516,559	1,980	518,539	71,140	447,399
セグメント利益又は損失 ()	2,875	70	2,804	120	2,925	44	2,880
セグメント資産	73,895	47,266	121,162	78	121,241	76,696	197,937
その他の項目							
減価償却費	4,842	954	5,797	4	5,802	0	5,801
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	3,787	1,655	5,442	9	5,452	211	5,664

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣業及び保険代理店業等であります。

2. 調整額は、以下の通りであります。

(1) セグメント利益又は損失の調整額は、たな卸資産の調整額等であります。

(2) セグメント資産の調整額76,696百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。全社資産の主なもの、現金及び預金9,506百万円、有価証券17,249百万円、投資その他の資産37,985百万円及び本部及び間接部門の固定資産7,779百万円等であります。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額211百万円は、主に各セグメントに配分していない全社資産の増加額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

	ハム・ソーセージ	食肉	調理食品	その他	合計
外部顧客への売上高	122,529	234,023	65,192	34,244	455,989

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

	ハム・ソーセージ	食肉	調理食品	その他	合計
外部顧客への売上高	123,161	230,293	58,262	35,682	447,399

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	加工食品事業本部	食肉事業本部	その他	全社・消去	合計
減損損失	2,072	-	-	1,790	3,863

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	加工食品事業本部	食肉事業本部	その他	全社・消去	合計
減損損失	391	236	-	114	743

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引
連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他の 関係会社	三菱商事(株)	東京都 千代田区	203,598	総合商社	(被所有) 直接20.65%	食肉及び原材料の仕入先	食肉及び原材料の仕入 (注)2	17,421	買掛金	5,953

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他の 関係会社	三菱商事(株)	東京都 千代田区	204,446	総合商社	(被所有) 直接21.38%	食肉及び原材料の仕入先	食肉及び原材料の仕入 (注)2	28,597	買掛金	4,934

(注)1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれており
ます。

2. 食肉及び原材料の仕入れについては、三菱商事(株)以外からも複数の見積もりを入手し、市場の実勢価格を
勘案して発注先及び価格を決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社はINDIANA PACKERS CORP.であり、その要約財務情報は以下のとお
りであります。

	INDIANA PACKERS CORP.	
流動資産合計	11,325百万円	
固定資産合計	9,606百万円	
流動負債合計	2,783百万円	
固定負債合計	3,100百万円	
純資産合計	15,047百万円	
売上高	83,887百万円	
税引前当期純利益金額	3,535百万円	
当期純利益金額	2,445百万円	

(1 株当たり情報)

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
1株当たり純資産額	481.41円	1株当たり純資産額	494.82円
1株当たり当期純利益金額	1.96円	1株当たり当期純利益金額	8.57円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	1.96円	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	8.57円

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	116,729	115,735
純資産の部の合計から控除する金額 (百万円)	728	569
(うち新株予約権)	(82)	(60)
(うち少数株主持分)	(646)	(509)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	116,000	115,165
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の株式の数(千株)	240,959	232,744

(注) 2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	478	2,060
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	478	2,060
期中平均株式数(千株)	243,951	240,310
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	204	180
(うち新株予約権)	(204)	(180)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額の算定に含めな かった潜在株式の概要	-	-

(重要な後発事象)

1. 社債の発行

当社は平成24年5月11日開催の取締役会決議に基づき、平成24年5月29日に下記のとおり無担保社債を発行いたしました。

第11回無担保社債

- (1) 発行総額 10,000百万円
- (2) 発行価額 各社債の金額100円につき金100円
- (3) 利率 年0.58%
- (4) 払込期日 平成24年5月29日
- (5) 償還期限 平成29年5月29日
- (6) 償還方法 満期一括償還
- (7) 償還金額 各社債の金額100円につき金100円
- (8) 資金の用途 社債償還資金
- (9) 特約 社債間限定同順位特約

2. 自己株式の取得

当社は平成24年5月11日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式の取得に係る事項を決議いたしました。

なお、自己株式の取得に係る事項は、次のとおりであります。

(1) 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行し、資本効率の向上を図るため。

(2) 取得内容

取得する株式の種類

当社普通株式

取得する株式の総数

5,000,000株(上限)

(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合2.1%)

取得する期間

平成24年5月14日より平成24年8月15日まで

取得価額の総額

1,600百万円(上限)

取得の方法

東京証券取引所における市場買付

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率(%)	担保	償還期限
伊藤ハム株式会社	第10回無担保社債	平成17.6.6	10,000	10,000 (10,000)	1.15	なし	平成24.6.6
合計	-	-	10,000	10,000 (10,000)	-	-	-

(注) 1. ()内書は1年以内の償還予定額であります。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
10,000	-	-	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	947	1,420	1.17	-
1年内返済予定の長期借入金	573	634	1.26	-
リース債務(1年以内に返済予定のもの。)	473	513	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	10,992	16,947	1.06	平成25年～31年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,218	976	-	平成25年～31年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	14,206	20,492	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	570	5,783	5,533	5,021
リース債務	435	310	144	54

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	108,626	221,726	350,744	447,399
税金等調整前四半期 (当期) 純利益金額 (百万円)	567	476	5,266	2,559
四半期 (当期) 純利益金額 (百万円)	285	244	4,160	2,060
1 株当たり四半期 (当期) 純 利益金額 (円)	1.18	1.02	17.27	8.57

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期純利益金額 又は 1 株当たり四半期純損失 金額 () (円)	1.18	0.17	16.31	8.94

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 28,831	1 4,625
受取手形	109	4 85
売掛金	2 43,695	2 48,717
有価証券	-	17,249
商品及び製品	14,147	15,683
仕掛品	281	199
原材料及び貯蔵品	10,752	5,766
前払費用	265	276
繰延税金資産	1,202	1,239
その他	529	2,270
貸倒引当金	48	134
流動資産合計	99,768	95,980
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 40,510	1 40,040
減価償却累計額	29,487	29,622
建物（純額）	1 11,023	1 10,418
構築物	4,333	4,310
減価償却累計額	3,772	3,793
構築物（純額）	560	517
機械及び装置	66,130	65,087
減価償却累計額	56,848	56,853
機械及び装置（純額）	9,281	8,233
車両運搬具	116	102
減価償却累計額	111	99
車両運搬具（純額）	4	2
工具、器具及び備品	3,806	3,608
減価償却累計額	3,237	3,067
工具、器具及び備品（純額）	568	540
土地	1 16,201	1 15,755
リース資産	878	842
減価償却累計額	261	400
リース資産（純額）	616	442
建設仮勘定	16	2
有形固定資産合計	38,273	35,912
無形固定資産		
ソフトウェア	741	661
リース資産	139	155
その他	135	134
無形固定資産合計	1,016	950

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	1 9,919	1 10,678
関係会社株式	14,963	15,926
出資金	410	408
長期貸付金	1,858	2,269
従業員に対する長期貸付金	0	3
関係会社長期貸付金	8,046	4,352
関係会社長期営業債権	3,019	2,451
破産更生債権等	258	274
長期前払費用	970	739
差入保証金	2,013	1,868
前払年金費用	7,582	7,111
繰延税金資産	-	470
その他	284	87
貸倒引当金	5,248	4,621
投資損失引当金	3,272	668
投資その他の資産合計	40,807	41,351
固定資産合計	80,097	78,214
資産合計	179,866	174,195
負債の部		
流動負債		
支払手形	148	212
買掛金	2 39,092	2 30,429
1年内返済予定の長期借入金	1 180	20
1年内償還予定の社債	-	10,000
リース債務	204	205
未払金	8,448	7,835
未払費用	688	610
未払法人税等	267	226
預り金	1 257	1 219
賞与引当金	1,024	1,169
設備関係支払手形	50	151
資産除去債務	-	5
その他	188	388
流動負債合計	50,550	51,474
固定負債		
社債	10,000	-
長期借入金	10,060	15,040
リース債務	589	422
繰延税金負債	499	-
債務保証損失引当金	449	383
資産除去債務	466	421
その他	1,345	973
固定負債合計	23,410	17,241
負債合計	73,960	68,715

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	28,427	28,427
資本剰余金		
資本準備金	30,033	30,033
その他資本剰余金	9	14
資本剰余金合計	30,042	30,047
利益剰余金		
利益準備金	5,603	5,603
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	2,093	2,062
別途積立金	35,300	35,300
繰越利益剰余金	4,549	5,886
利益剰余金合計	47,546	48,852
自己株式	2,132	4,662
株主資本合計	103,883	102,665
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,894	2,661
繰延ヘッジ損益	45	93
評価・換算差額等合計	1,940	2,754
新株予約権	82	60
純資産合計	105,905	105,479
負債純資産合計	179,866	174,195

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	9 383,925	9 387,388
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	11,466	14,147
合併による商品受入高	-	2,271
当期製品製造原価	4 78,667	4 71,872
当期商品仕入高	9 268,202	9 277,859
合計	358,336	366,150
他勘定振替高	2 871	2 609
商品及び製品期末たな卸高	14,147	15,683
売上原価合計	1 343,317	1 349,857
売上総利益	40,607	37,531
販売費及び一般管理費	3, 4 41,307	3, 4 38,427
営業損失()	699	896
営業外収益		
受取利息	262	180
受取配当金	9 1,489	9 1,005
受取賃貸料	9 1,224	9 1,575
雑収入	217	476
営業外収益合計	3,194	3,238
営業外費用		
支払利息	177	141
社債利息	115	115
不動産賃貸費用	746	1,011
雑損失	25	50
営業外費用合計	1,064	1,318
経常利益	1,429	1,023
特別利益		
抱合せ株式消滅差益	-	11 784
固定資産売却益	5 3,613	5 68
投資有価証券売却益	632	111
貸倒引当金戻入額	-	8 563
投資損失引当金戻入額	-	8 806
その他	211	74
特別利益合計	4,458	2,409

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
特別損失		
固定資産売却損	6 285	6 29
固定資産除却損	7 284	7 252
減損損失	10 901	10 685
災害による損失	526	-
投資損失引当金繰入額	8 874	-
特別退職金	1,183	-
貸倒引当金繰入額	8 1,866	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	301	-
事業構造改革費用	-	12 593
その他	57	153
特別損失合計	6,281	1,713
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	393	1,719
法人税、住民税及び事業税	70	69
法人税等調整額	2,234	379
法人税等合計	2,163	309
当期純利益	1,769	2,028

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
原材料費	1	53,707	68.2	49,246	68.6
労務費		10,912	13.9	10,030	14.0
経費		14,135	17.9	12,464	17.4
当期総製造費用		78,755	100.0	71,742	100.0
期首仕掛品たな卸高		245		281	
合計		79,001		72,023	
期末仕掛品たな卸高		281		199	
他勘定振替高	2	52		48	
当期製品製造原価		78,667		71,872	

(注)

前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
1. 経費の主な内訳		1. 経費の主な内訳	
減価償却費	3,027百万円	減価償却費	2,517百万円
水道・電力・燃料費	3,005	水道・電力・燃料費	2,783
外注加工費	1,527	外注加工費	1,293
運賃	359	運賃	330
保管料	728	保管料	467
2. 主原料配賦経費	12百万円	2. 主原料配賦経費	101百万円
販売費及び一般管理費振替高	51	販売費及び一般管理費振替高	50
その他	13	その他	1
合計	52	合計	48

原価計算方法

単純総合原価計算によっておりますが、製品原価算定においては、等価係数による等級別原価計算を行っておりません。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	28,427	28,427
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	28,427	28,427
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	30,033	30,033
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	30,033	30,033
その他資本剰余金		
当期首残高	5	9
当期変動額		
自己株式の処分	3	5
当期変動額合計	3	5
当期末残高	9	14
資本剰余金合計		
当期首残高	30,038	30,042
当期変動額		
自己株式の処分	3	5
当期変動額合計	3	5
当期末残高	30,042	30,047
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	5,603	5,603
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,603	5,603
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
当期首残高	2,157	2,093
当期変動額		
実効税率変更に伴う積立金の増加	-	145
固定資産圧縮積立金の取崩	63	176
当期変動額合計	63	30
当期末残高	2,093	2,062
別途積立金		
当期首残高	35,300	35,300
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	35,300	35,300

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
繰越利益剰余金		
当期首残高	3,451	4,549
当期変動額		
実効税率変更に伴う積立金の増加	-	145
固定資産圧縮積立金の取崩	63	176
剰余金の配当	735	722
当期純利益	1,769	2,028
当期変動額合計	1,097	1,336
当期末残高	4,549	5,886
利益剰余金合計		
当期首残高	46,512	47,546
当期変動額		
剰余金の配当	735	722
当期純利益	1,769	2,028
当期変動額合計	1,033	1,305
当期末残高	47,546	48,852
自己株式		
当期首残高	805	2,132
当期変動額		
自己株式の取得	1,350	2,564
自己株式の処分	22	34
当期変動額合計	1,327	2,529
当期末残高	2,132	4,662
株主資本合計		
当期首残高	104,173	103,883
当期変動額		
剰余金の配当	735	722
当期純利益	1,769	2,028
自己株式の取得	1,350	2,564
自己株式の処分	26	40
当期変動額合計	289	1,217
当期末残高	103,883	102,665

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	2,974	1,894
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,080	766
当期変動額合計	1,080	766
当期末残高	1,894	2,661
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	85	45
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	39	47
当期変動額合計	39	47
当期末残高	45	93
評価・換算差額等合計		
当期首残高	3,059	1,940
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,119	814
当期変動額合計	1,119	814
当期末残高	1,940	2,754
新株予約権		
当期首残高	81	82
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	22
当期変動額合計	0	22
当期末残高	82	60
純資産合計		
当期首残高	107,314	105,905
当期変動額		
剰余金の配当	735	722
当期純利益	1,769	2,028
自己株式の取得	1,350	2,564
自己株式の処分	26	40
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,118	792
当期変動額合計	1,408	425
当期末残高	105,905	105,479

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

(2) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(3) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

(1) デリバティブ

時価法

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 製品、商品（販売用食肉及び販売用不動産を除く）

先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 販売用食肉

月別移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(3) 販売用不動産

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(4) 原材料（肥育牛を除く）、仕掛品、貯蔵品

月別移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(5) 肥育牛

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用しております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物 24～50年

機械及び装置 5～10年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

過去勤務債務は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生した事業年度より費用処理することとしております。

(4) 債務保証損失引当金

債務保証に係る損失に備えるため、被保証会社の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

(5) 投資損失引当金

投資に係る損失に備えるため、被投資会社の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替予約取引について振当処理の要件を充たしている場合には振当処理を行っております。また、金利スワップ取引について特例処理の要件を充たしている場合には特例処理を行っております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約、金利スワップ

ヘッジ対象...外貨建予定取引、借入金利息

(3) ヘッジ方針

為替予約は為替変動リスクをヘッジするため、金利スワップは金利変動リスクを回避する手段として、実需の範囲内で行うこととし、投機目的の取引は行わない方針であります。

為替予約については、為替リスク管理委員会を設置し、社内管理基準に基づくリスク管理体制をとっており、金利スワップについては、財務部に一元管理を行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

為替予約取引は原則的に将来の仕入予定に基づくものであり、実行の可能性が極めて高いため、有効性の判定は省略しております。

また、金利スワップ取引は特例処理の要件を充たしているため有効性の判定は省略しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

【表示方法の変更】

(貸借対照表)

前事業年度において、独立掲記しておりました「無形固定資産」の「商標権」につきましては、明瞭性を高める観点から表示科目の見直しを行い、当事業年度より「その他」に含めて表示することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「無形固定資産」の「商標権」に表示しておりました0百万円は、「その他」として組み替えております。

(損益計算書)

前事業年度において、独立掲記しておりました「特別損失」の「投資有価証券売却損」及び「投資有価証券評価損」につきましては、明瞭性を高める観点から表示科目の見直しを行い、当事業年度より「その他」に含めて表示することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「特別損失」の「投資有価証券売却損」及び「投資有価証券評価損」に表示しておりました22百万円及び18百万円は、「その他」として組み替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(退職給付引当金の数理計算上の差異及び過去勤務債務の処理年数の変更)

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生の翌事業年度から費用処理することとしておりますが、従業員の平均残存勤務期間を見直した結果、当事業年度より数理計算上の差異の処理年数を14年から13年に変更しております。

また、過去勤務債務は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度より費用処理することとしておりますが、従業員の平均残存勤務期間を見直した結果、当事業年度より過去勤務債務の処理年数を14年から13年に変更しております。

この結果、従来の処理年数によった場合に比べ、当事業年度の営業損失は202百万円増加し、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ202百万円減少しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
現金及び預金	120百万円	110百万円
建物	871	828
土地	80	80
投資有価証券	249	249
計	1,322	1,269

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	160百万円	-百万円
預り金(ギフト券発行残高)	64	56

2. 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
流動資産		
売掛金	29,083百万円	32,677百万円
流動負債		
買掛金	16,631	7,070

3. 偶発債務

次のとおり銀行借入等に対し保証を行っております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)		当事業年度 (平成24年3月31日)
(有)環境ファーム	1,364百万円	(有)環境ファーム	1,033百万円
(株)鹿児島農場	1,100	FIVE STAR BEEF LTD.	864
(有)島根農場	670	(NZ \$ 12,850千)	
ロイヤルデリカ(株)	578	(有)島根農場	802
(株)大龍	550	(株)大龍	550
	544	(株)鹿児島農場	500
INDIANA PACKERS CORP.	(US \$ 6,550千)	ロイヤルデリカ(株)	454
	523	INDIANA PACKERS CORP.	387
FIVE STAR BEEF LTD.	(NZ \$ 8,250千)	(US \$ 4,718千)	
協栄ファーム(有)	300	協栄ファーム(有)	298
ITOHAM BETAGRO FOODS CO., LTD.	209 [522] (THB 76,000千)	ITOHAM BETAGRO FOODS CO., LTD.	228 [507] (THB 85,500千)
(有)坂元種畜場	180	(有)坂元種畜場	180
その他 3件	172	その他 2件	40
計	6,192	計	5,340

(注) ITOHAM BETAGRO FOODS CO., LTD. の [] 内の金額は連帯保証債務の総額であり、当社への再保証額が含まれております。

4. 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当期の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	10百万円

5. 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	19,800百万円	19,800百万円
借入実行残高	-	-
差引額	19,800	19,800

(損益計算書関係)

1. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、前事業年度の評価損の戻入益と当事業年度の評価損を相殺した結果、次のたな卸資産評価損(は戻入益)が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	98百万円	88百万円

2. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
販売費への振替高	568百万円	451百万円
その他	303	158
計	871	609

3. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度77%、当事業年度77%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度23%、当事業年度23%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
広告宣伝費	4,426百万円	3,620百万円
発送配達費	12,775	13,087
給料及び手当	6,079	5,704
保管料	1,937	1,984
包装費	2,081	1,768
賃借料	1,183	791
賞与金	1,001	708
賞与引当金繰入額	606	699
退職給付費用	1,075	1,202
減価償却費	746	679

4. 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	800百万円	749百万円

5. 固定資産売却益の主なものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
土地	3,613百万円	52百万円

6. 固定資産売却損の主なものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
土地	185百万円	22百万円

7. 固定資産除却損の主な資産別内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	16百万円	77百万円
機械及び装置	57	61
工具、器具及び備品	6	8
撤去費用他	204	105
計	284	252

8. 関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
貸倒引当金繰入額	1,430百万円	- 百万円
貸倒引当金戻入額	-	551
投資損失引当金繰入額	874	-
投資損失引当金戻入額	-	806

9. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高	246,214百万円	245,638百万円
仕入高	125,107	118,438
受取配当金	1,255	771
受取賃貸料	866	1,198

10. 減損損失

当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。
前事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

場所	用途	種類
茨城県つくば市他	遊休資産	建物、構築物、工具、器具及び備品、土地
千葉県船橋市	調理加工食品製造工場	建物、構築物、機械及び装置、無形固定資産その他

当社は、セグメント（加工食品事業本部、食肉事業本部及びその他）を基本単位としてグルーピングし、賃貸資産及び遊休資産については個々の資産毎にグルーピングしております。

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり回復が見込まれない事業の資産、使用見込みのない遊休資産及び時価が著しく下落している遊休土地について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を特別損失（901百万円）に計上しております。その内訳は、建物645百万円、構築物161百万円、機械及び装置7百万円、工具、器具及び備品0百万円、土地67百万円、無形固定資産その他19百万円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地及び建物等については、鑑定評価額に準ずる評価額により評価しております。

当事業年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

場所	用途	種類
千葉県船橋市他	遊休資産	建物、構築物、機械及び装置、工具、器具及び備品、土地、ソフトウェア、無形固定資産その他

当社は、セグメント（加工食品事業本部、食肉事業本部及びその他）を基本単位としてグルーピングし、賃貸資産及び遊休資産については個々の資産毎にグルーピングしております。

使用見込みのない遊休資産及び時価が著しく下落している遊休土地について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を特別損失（685百万円）に計上しております。その内訳は、建物131百万円、構築物5百万円、機械及び装置384百万円、工具、器具及び備品2百万円、土地159百万円、ソフトウェア0百万円、無形固定資産その他0百万円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地及び建物等については、鑑定評価額に準ずる評価額により評価しております。

11. 抱合せ株式消滅差益

当社の連結子会社である宝永物産㈱を吸収合併したことに伴う抱合せ株式消滅差益であります。
なお、前事業年度については、該当事項はありません。

12. 事業構造改革費用

グループ会社再編に伴う、移籍者に対する移籍加算金であります。
なお、前事業年度については、該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式(注)1,2	2,160	4,422	61	6,522
合計	2,160	4,422	61	6,522

(注)1. 普通株式の自己株式の株式数の増加4,422千株は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得4,417千株及び単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少61千株は、ストック・オプションの行使による減少であります。

当事業年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式(注)1,2	6,522	8,322	107	14,737
合計	6,522	8,322	107	14,737

(注)1. 普通株式の自己株式の株式数の増加8,322千株は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得8,320千株及び単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少107千株は、ストック・オプションの行使による減少であります。

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主に情報システム関連設備であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度(平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	174	129	44
車両運搬具	90	79	11
工具、器具及び備品	340	297	43
その他	275	241	34
合計	881	747	133

(単位：百万円)

	当事業年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	164	136	28
車両運搬具	58	56	2
工具、器具及び備品	188	180	8
その他	219	215	4
合計	631	588	42

(注)取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法により算定しております。

(2)未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	92	31
1年超	40	11
合計	133	42

(注)未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
支払リース料	151	90
減価償却費相当額	151	90

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式9,115百万円、関連会社株式6,811百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式10,718百万円、関連会社株式4,245百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金繰入限度超過額	2,033百万円	1,676百万円
賞与引当金繰入限度超過額	415	443
未払事業税否認	44	25
棚卸資産簿価切下げ否認	39	520
退職給付引当金超過額	608	746
債務保証損失引当金否認	182	108
投資有価証券評価損否認	1,514	1,732
投資損失引当金否認	1,328	238
固定資産評価損等否認	1,199	811
事業再生費用否認	334	148
有姿除却固定資産	321	268
資産除去債務否認	189	152
繰越欠損金	2,586	3,896
その他	953	203
繰延税金資産小計	11,752	10,971
評価性引当金	8,132	6,494
繰延税金資産計	3,620	4,477
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	1,430	1,164
その他有価証券評価差額金	1,395	1,498
その他	90	103
繰延税金負債合計	2,916	2,767
繰延税金資産(負債)の純額	703	1,709

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	1,234百万円	1,296百万円
固定資産 - 繰延税金資産	2,386	3,181
流動負債 - 繰延税金負債	31	56
固定負債 - 繰延税金負債	2,885	2,710

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	20.9	7.9
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	142.2	42.1
住民税均等割等	16.0	4.0
評価性引当金の増減額	407.8	43.6
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	15.8
その他	4.1	0.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	549.6	18.0

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債を控除した金額）が56百万円、法人税等調整額（貸方）が271百万円減少し、繰延ヘッジ損益（貸方）が3百万円、その他有価証券評価差額金（貸方）が210百万円増加しております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

1. 結合当事企業の名称及びその事業の内容、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称及び取引の目的

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

名称 宝永物産株式会社

事業内容 食肉の輸出入及び国内販売

(2) 企業結合日

平成23年6月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

伊藤ハム株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

宝永物産株式会社は食肉の輸出入及び国内販売を主な事業としております。当社グループは新中期経営計画の方針のひとつとしてコスト競争力の強化を掲げ、具体的な施策としてグループ再編を行うこととしており、当該子会社を当社に統合することで、より効率化を図り、競争力の維持・強化を図ることを目的としております。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

営業所等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を1年から38年と見積り、割引率は0.950%から2.354%（期間に応じた利付国債の利率）を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
期首残高(注)	465百万円	466百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	2	-
時の経過による調整額	6	6
資産除去債務の履行による減少額	8	45
期末残高	466	427

(注) 前事業年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
1株当たり純資産額	439.17円	1株当たり純資産額	452.94円
1株当たり当期純利益金額	7.25円	1株当たり当期純利益金額	8.44円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	7.25円	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	8.44円

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	105,905	105,479
純資産の部の合計から控除する金額 (百万円)	82	60
(うち新株予約権)	(82)	(60)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	105,823	105,419
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の株式の数(千株)	240,959	232,744

(注) 2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	1,769	2,028
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,769	2,028
期中平均株式数(千株)	243,951	240,311
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	204	180
(うち新株予約権)	(204)	(180)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額の算定に含めな かった潜在株式の概要	-	-

(重要な後発事象)

1. 社債の発行

当社は平成24年5月11日開催の取締役会決議に基づき、平成24年5月29日に下記のとおり無担保社債を発行いたしました。

第11回無担保社債

- (1) 発行総額 10,000百万円
- (2) 発行価額 各社債の金額100円につき金100円
- (3) 利率 年0.58%
- (4) 払込期日 平成24年5月29日
- (5) 償還期限 平成29年5月29日
- (6) 償還方法 満期一括償還
- (7) 償還金額 各社債の金額100円につき金100円
- (8) 資金の用途 社債償還資金
- (9) 特約 社債間限定同順位特約

2. 自己株式の取得

当社は、平成24年5月11日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式の取得に係る事項を決議いたしました。

なお、自己株式の取得に係る事項は、次のとおりであります。

(1) 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行し、資本効率の向上を図るため。

(2) 取得内容

取得する株式の種類

当社普通株式

取得する株式の総数

5,000,000株(上限)

(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合2.1%)

取得する期間

平成24年5月14日より平成24年8月15日まで

取得価額の総額

1,600百万円(上限)

取得の方法

東京証券取引所における市場買付

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	イオン(株)	2,483,215	2,701
		(株)セブン&アイ・ホールディングス	688,182	1,691
		丸紅(株)	1,024,827	611
		エスフーズ(株)	838,888	562
		J・フロントリテイリング(株)	1,123,360	518
		東京海上ホールディングス(株)	138,160	313
		(株)いなげや	316,280	292
		(株)伊予銀行	345,120	252
		(株)吉野家ホールディングス	2,293	245
		(株)オークワ	177,763	209
		その他 117銘柄	5,313,041	3,263
		計	12,451,132	10,665

【債券】

		銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	満期保有 目的の債券	6 4 回 1.5利付国庫債券	50	49
		6 6 回 1.1利付国庫債券	200	200
		小計	250	249
	その他有価証券	6 2 年度千葉県公債第 4 回ナ号	6	6
		その他 2 銘柄	6	6
		小計	12	12
			計	262

【その他】

		種類及び銘柄	投資口数等 (口)	貸借対照表計上額 (百万円)
有価証券	その他有価証券	譲渡性預金	-	17,000
		計	-	17,000

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	40,510	809	1,279 (131)	40,040	29,622	866	10,418
構築物	4,333	278	302 (5)	4,310	3,793	91	517
機械及び装置	66,130	1,974	3,017 (384)	65,087	56,853	2,481	8,233
車両運搬具	116	1	15	102	99	3	2
工具、器具及び備品	3,806	147	345 (2)	3,608	3,067	147	540
土地	16,201	166	612 (159)	15,755	-	-	15,755
リース資産	878	73	108	842	400	156	442
建設仮勘定	16	2	16	2	-	-	2
有形固定資産計	131,992	3,454	5,698 (684)	129,749	93,836	3,746	35,912
無形固定資産							
ソフトウェア	2,508	196	22 (0)	2,682	2,020	272	661
リース資産	194	57	4	247	92	40	155
その他	201	1	0 (0)	201	67	2	134
無形固定資産計	2,903	255	28 (1)	3,130	2,180	315	950
長期前払費用	1,504	26	45	1,485	745	251	739

(注) 1. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 当期増加額の主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	東京工場	531百万円	西宮工場	215百万円
	豊橋工場	360百万円	神戸工場	176百万円

3. 当期減少額の主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	東京工場	508百万円	西宮工場	256百万円
	豊橋工場	316百万円	船橋工場	1,186百万円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金(注)1	5,296	461	2	1,000	4,755
投資損失引当金(注)2	3,272	86	1,437	1,252	668
賞与引当金	1,024	1,169	1,024	-	1,169
債務保証損失引当金(注)3	449	38	-	104	383

(注) 1. 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、債権回収による取崩額及び一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

2. 投資損失引当金の当期減少額(その他)は、関係会社の財政状態等を勘案し、損失負担見込額の見直し等による戻入額であります。

3. 債務保証損失引当金の当期減少額(その他)は、被保証会社の財政状態等を勘案し、損失負担見込額の見直しによる戻入額であります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

資産の部

1) 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	49
預金	
当座預金	4,433
普通預金	13
自由金利型定期預金	120
別段預金	9
小計	4,576
合計	4,625

2) 受取手形

a 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
南州食品(株)	22
(株)ハリカ	15
日本ジフィー食品(株)	8
(株)サンリオエンターテイメント	7
(株)加茂川元舗	6
その他	24
合計	85

b 期日別内訳

平成24年4月 (百万円)	5月 (百万円)	6月 (百万円)	7月以降 (百万円)	合計 (百万円)
33	49	1	1	85

3) 売掛金

a 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
伊藤ハムミート販売東(株)	11,035
伊藤ハムミート販売西(株)	10,793
伊藤ハム販売(株)	4,214
伊藤ハムウエスト(株)	3,234
伊藤ハムデイリー(株)	2,184
その他	17,254
合計	48,717

b 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期末残高 (百万円)	当期末発生高 (百万円)	当期末回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div (B)$
43,695	406,758	401,736	48,717	89.2	41

(注) 消費税等の処理の方法は税抜方式によっておりますが、上記当期末発生高には消費税等が含まれております。

4) たな卸資産

a 商品及び製品

品目	金額(百万円)
ハム・ソーセージ	2,636
食肉	9,915
調理加工食品ほか	2,631
販売用不動産	500
合計	15,683

b 仕掛品

品目	金額(百万円)
ハム・ソーセージほか	199
合計	199

c 原材料及び貯蔵品

品目	金額(百万円)
原材料	
豚肉	4,424
牛肉	210
鶏肉	328
魚肉	18
その他原料肉	36
味付添加物	306
その他副資材	275
小計	5,600
貯蔵品	
ダンボールケースほか	166
小計	166
合計	5,766

(注) 販売用不動産内訳

地域別	面積(m ²)	金額(百万円)
大阪府泉佐野市	6,769	500
合計	6,769	500

5) 関係会社株式

銘柄	金額(百万円)	
ITOHAM AMERICA, INC.	(US\$ 30,870千)	3,315
MIY(株)		3,300
ANZCO FOODS LTD.	(NZ\$ 28,584千)	2,049
伊藤ハムデイリー(株)		1,312
伊藤ハムミート販売西(株)		800
その他 32銘柄		5,149
合計		15,926

負債の部

1) 支払手形

a 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
高橋工業(株)	71
(株)タカラ	34
ライフファン工業(株)	28
東罐興業(株)	14
サンキ産業(株)	13
その他	50
合計	212

b 期日別内訳

平成24年4月 (百万円)	5月 (百万円)	6月 (百万円)	7月以降 (百万円)	合計 (百万円)
56	43	112	-	212

2) 買掛金

相手先	金額(百万円)
三菱商事(株)	4,862
丸紅(株)	1,651
スターゼンインターナショナル(株)	1,517
ハンナン(株)	1,265
住金物産(株)	1,087
その他	20,043
合計	30,429

3) 1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額(百万円)
日本生命保険相互会社	20
合計	20

4) 1年内償還予定の社債

内訳は、1. 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 連結附属明細表・社債明細表に記載しております。

5) 設備関係支払手形

a 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
高橋工業(株)	103
イシダ産機(株)	17
矢内建設工業(株)	11
トヨタL&F兵庫(株)	7
仙台ヤマトハカリ(株)	4
その他	8
合計	151

b 期日別内訳

平成24年4月 (百万円)	5月 (百万円)	6月 (百万円)	7月以降 (百万円)	合計 (百万円)
28	17	105	-	151

6) 長期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)みずほコーポレート銀行	2,000
(株)三井住友銀行	2,000
(株)三菱東京UFJ銀行	2,000
(株)伊予銀行	1,500
(株)常陽銀行	1,160
三菱UFJ信託銀行(株)	930
その他	5,450
合計	15,040

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	(注)
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所 買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.itoham.co.jp/corporate/ir/e-koukoku/index.html
株主に対する特典	3月31日現在、所有株式数1,000株以上の株主に対し、5,000円相当の当社製品を贈呈する。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することはできません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書
事業年度（第71期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）平成23年6月29日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
平成23年6月29日関東財務局長に提出
- (3) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書
平成23年8月10日関東財務局長に提出
事業年度（第71期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。
平成24年6月15日関東財務局長に提出
事業年度（第71期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。
- (4) 四半期報告書及び確認書
（第72期第1四半期）（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）平成23年8月12日関東財務局長に提出
（第72期第2四半期）（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）平成23年11月14日関東財務局長に提出
（第72期第3四半期）（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）平成24年2月14日関東財務局長に提出
- (5) 臨時報告書
平成23年6月29日関東財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。
- (6) 自己株券買付状況報告書
報告期間（自 平成23年11月11日 至 平成23年11月30日）平成23年12月8日関東財務局長に提出
報告期間（自 平成23年12月1日 至 平成23年12月31日）平成24年1月10日関東財務局長に提出
報告期間（自 平成24年1月1日 至 平成24年1月31日）平成24年2月8日関東財務局長に提出
報告期間（自 平成24年2月1日 至 平成24年2月29日）平成24年3月2日関東財務局長に提出
報告期間（自 平成24年3月1日 至 平成24年3月31日）平成24年4月3日関東財務局長に提出
報告期間（自 平成24年5月14日 至 平成24年5月31日）平成24年6月8日関東財務局長に提出
- (7) 発行登録書（普通社債）及びその添付書類
平成24年3月28日関東財務局長に提出
- (8) 訂正発行登録書
平成24年5月11日関東財務局長に提出
平成24年5月14日関東財務局長に提出
平成24年6月15日関東財務局長に提出
- (9) 発行登録追補書類（普通社債）及びその添付書類
平成24年5月22日近畿財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月27日

伊藤ハム株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 近藤 康仁 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 牧 美喜男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 和人 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている伊藤ハム株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、伊藤ハム株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、伊藤ハム株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、伊藤ハム株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は、当社（有価証券報告書提出会社）が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年6月27日

伊藤ハム株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 近藤 康仁 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 牧 美喜男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 和人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている伊藤ハム株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第72期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、伊藤ハム株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は、当社（有価証券報告書提出会社）が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。